

# 小美玉市まちづくり構想

令和2年3月



---

## 目次

### 小美玉市まちづくり構想

ごあいさつ .....	1
-------------	---

#### I. 事業概要

1. 小美玉市まちづくり事業の目的と位置づけ .....	2
1-1. 事業の背景 .....	2
1-2. 事業の目的 .....	2
1-3. 事業の位置づけ .....	2
1-4. 計画対象エリアの概要 .....	2

#### II. 現況調査

2. 小美玉市および計画対象エリア周辺の概況 .....	4
2-1. 小美玉市の概況 .....	4
2-2. 上位計画等 .....	6
2-3. 計画対象エリア周辺の位置づけ .....	6
2-4. 百里基地と市民の交流 .....	7
3. 計画対象エリアの現状と課題 .....	8
3-1. 空の交流エリアの現状と課題 .....	8
3-2. ゲートウェイエリアの現状と課題 .....	13
3-3. 空港アクセス沿道エリアの現状と課題 .....	16
4. 計画策定の経緯 .....	17
4-1. 計画策定の進め方 .....	17
4-2. 策定委員会の実施状況 .....	17
4-3. ワークショップの実施状況 .....	18

---

### Ⅲ. 基本構想

5. 基本理念等 .....	20
5-1. 基本理念 .....	20
5-2. 基本目標 .....	21
5-3. 取組方針 .....	23
6. 今後の進め方 .....	31

### 参 考 資 料

1. 現状調査補足資料 .....	32
1-1. 防衛省関連交付金事業一覧 .....	32
1-2. 騒音区域図 .....	34
1-3. 百里基地交流イベント .....	35
1-4. 茨城空港ターミナル基礎情報 .....	36
1-5. 茨城空港ターミナルビル内の各種イベント .....	37
1-6. 茨城空港周辺の宿泊施設 .....	38
2. 策定委員会の趣旨 .....	39
2-1. 趣旨・目的 .....	39
2-2. 事業背景 .....	39
3. 策定委員会で委員から出された主な意見 .....	40
3-1. 第1回委員会で委員から出された主な意見 .....	40
3-2. 第2回委員会で委員から出された主な意見 .....	40
4. ワークショップの趣旨 .....	42
4-1. 趣旨・目的 .....	42
4-2. 開催プログラム .....	42
5. ワークショップの開催状況 .....	43
5-1. 開催概況 .....	43
5-2. テーマごとの状況 .....	44
5-3. グループごとの発表と総評 .....	47
5-4. まちづくりに向けての考察 .....	51

## ごあいさつ



茨城空港が開港して10年を経過し、年間利用者数が80万人を突破するなど、首都圏第3の空港としての役割を十分に発揮し、中国や台湾からのインバウンド利用者も年々増加するなど国際路線としても定着してきております。

本市では開港以来、茨城県と協力しながら空港ターミナルビルや空港公園内において、空港利用者並びに見学者の皆様には様々なイベントを通して、茨城県そして小美玉市のPRを行い、利用促進や認知度向上を図って参りました。その活動と併せて、開港4年後には空港に隣接する形で空のえき「そ・ら・ら」をオープンさせ、空港来場者の約6割の方にご利用いただいているところであります。

このたび、国の補助事業である「まちづくり構想策定支援事業」の採択を受け、本市では小美玉市第2次総合計画にある基本理念のうち「人・もの・情報の交流、そして発信」をふまえて、土地利用構想で示している「空の交流エリア」「ゲートウェイエリア」「空港アクセス沿道エリア」の3つのエリアについて、百里基地並びに茨城空港を核として交流人口の拡大や地域振興を活性化し、茨城空港や本市の認知度の向上を図るとともに、飛行場と地域住民が共存できる災害に強いまちづくりを目指してまいりたいと考えております。

令和2年3月

小美玉市長 島田 穰一



## I. 事業概要

### 1. 小美玉市まちづくり事業の目的と位置づけ

#### 1-1. 事業の背景

本市では航空自衛隊百里基地を抱え、これまで基地と市民の交流並びに、市民の安全安心な生活の安定を図るため、防衛省の補助事業を活用し、道路・学校・社会福祉施設・地区公民館の整備等、様々な事業を進めてきました。

平成 22 年 3 月に航空自衛隊との共用空港として開港した茨城空港は、これまで旅客数並びに就航路線を着実に増やしていますが、茨城空港利用者に少しでも長く本市に滞在してもらえかが課題となっています。また、茨城空港を訪れる来場者数は、近年は横ばいで推移していますが、空港を活かした産業の振興は重要度が高く、本市の魅力ある観光資源などの周知・PRを推進し、地元への経済波及効果をもたらすことが期待されています。

#### 1-2. 事業の目的

このたび、国の補助事業である「まちづくり構想策定支援事業」の採択を受け、本市では小美玉市第 2 次総合計画にある基本理念のうち「人・もの・情報の交流、そして発信」をふまえ、土地利用構想で示している「空の交流エリア」「ゲートウェイエリア」「空港アクセス沿道エリア」の 3 つのエリアについて、百里基地並びに茨城空港を核として交流人口の拡大や地域振興を活性化し、茨城空港や本市の認知度の向上を図るとともに、飛行場と地域住民が共存できる災害に強いまちづくりを目指すことを目的とします。

#### 1-3. 事業の位置づけ

本市では「小美玉市第 2 次総合計画」（平成 30 年度～令和 9 年度）のまちづくり将来像である『「ひと もの 地域」が輝き はばたく ダイヤモンドシティ ～見つける。みがく。光をあてる。～』を実現するため、基本目標として「みんなの力で磨くまちづくり」、「人を育てる学びの場づくり」、「誰もがいきいきと暮らせる社会づくり」、「仕事と暮らしを創造する環境づくり」、「安全・安心な生活を支える体制づくり」の五つの基本目標を掲げ、「茨城空港の利活用」「観光の振興」や「基地対策の充実」「防災対策の充実」などの施策を展開しています。

#### 1-4. 計画対象エリアの概要

##### (1)「空の交流エリア」の概要

茨城空港・百里基地・茨城空港テクノパークなど、基地と空港を中心とするエリアです。周辺環境への影響に配慮するため緩衝緑地としての公園・広場や、北関東の空の玄関口としての利便

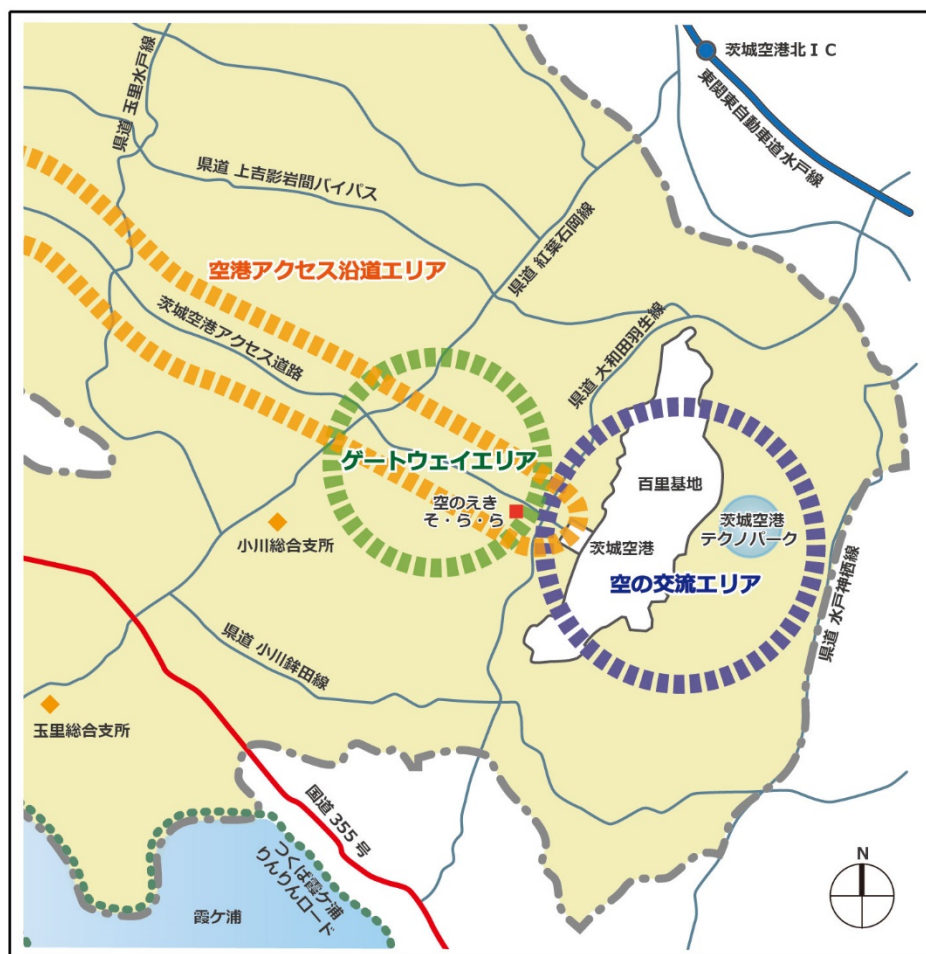
性を促進するための駐車場を整備するとともに、茨城空港テクノパークの産業立地を推進し、交通の要衝にふさわしい交流空間の形成を図るべきエリアです。

### (2) 「ゲートウェイエリア」の概要

「空の交流エリア」に隣接し、空の玄関口茨城空港につながる「茨城空港線」の沿道に広がるエリアです。北関東の空の玄関口にふさわしい快適な街並み形成と地域活性化を目指し、土地利用の適切な規制・誘導による計画的な土地利用を推進すると共に、空のえき「そ・ら・ら」を拠点に、滞在型施設の整備や誘致を推進し、交流人口の拡大を図るべきエリアです。

### (3) 「空港アクセス沿道エリア」の概要

空の玄関口茨城空港から石岡小美玉スマート I C までの「茨城空港線」及び茨城空港アクセス道路沿道を「空港アクセス沿道エリア」に位置付けます。沿道サービス機能の誘導を図り、土地利用の適切な規制・誘導による計画的な土地利用を推進すべきエリアです。



## Ⅱ. 現況調査

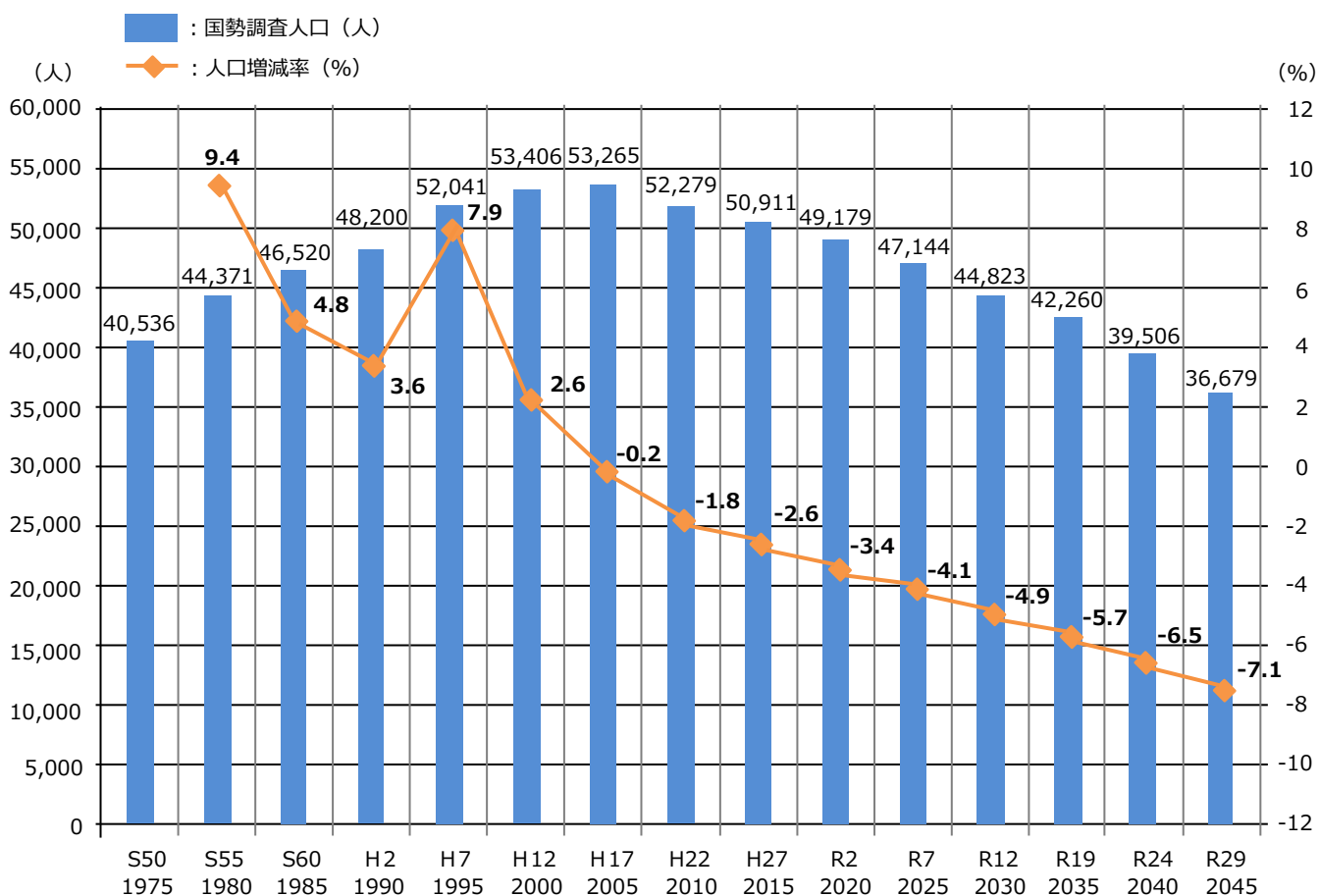
### 2. 小美玉市および計画対象エリア周辺の概況

#### 2-1. 小美玉市の概況

##### (1) 人口

昭和 50 年（1975 年）からの人口と人口増減率の推移及び令和 2 年（2020 年）以後の人口予測と人口増減率予測をグラフにしたものが下図です。国勢調査によると本市の人口は、平成 12 年（2000 年）をピークに減少傾向に転じています。平成 27 年の増減率は-2.6%で、前回調査（平成 22 年）の-1.9%から拡大し、今後もこの傾向が継続していくことが予測されています。

首都圏または水戸市などの都市部への人口集中が考えられるなか、総合戦略に掲げる人口減少の抑制、より魅力ある暮らしの創造を目指した施策の展開を図っています。



出典：国勢調査（S50～R29）

国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成 30（2018）年推計）

## (2) 地勢・風土

本市は、東京都心から約 80 k m、県都水戸市から約 30 k m、面積は 144. 74 k m<sup>2</sup>で、茨城県中南部の県央地域に位置しています。

市の東部には航空自衛隊百里基地と民間共用化した「茨城空港」があり、市の北西部には常磐線と常磐自動車道が通りアクセスが良好です。茨城空港と常磐道石岡小美玉スマート I C を東西に連絡するアクセス道路の整備が進められています。

市の南部は霞ヶ浦に面しており、湖岸を巡る「つくば霞ヶ浦りんりんロード」は、全国でも屈指の安全で快適に走行できるサイクリングコースです。

地表は概ね関東ローム層に覆われ、起伏が少ない平坦な地形が特徴で、災害が少なく肥沃な土地であることから、古くから農業や畜産が行われてきています。

また、市の南東部には平地林や、谷あいの湿地を利用した水田（谷津田）が多く見られ、里山文化と共に、多様な生態系が維持されています。



つくば霞ヶ浦りんりんロード

## (3) 歴史

縄文時代の霞ヶ浦は穏やかな内海で、貝や魚などの海の幸、獣や木の実といった山の幸に恵まれ、温暖な気候や水利のよさから豊かな繁栄がもたらされてきました。

弥生時代の後半、2000 年前ごろに玉里の地に米作りが伝わったとされています。

古墳時代になると、霞ヶ浦沿岸・園部川・巴川流域を中心とする水田地帯を支配し、霞ヶ浦の水上交通を掌握する有力な豪族が誕生しました。

中世から江戸時代にかけては、武士による複雑な所領関係が続きました。

江戸時代中期になると、小川河岸に水戸藩の運送奉行が置かれるなど、水戸と江戸を結ぶ水運の街として栄えました。

昭和後期からは近代農畜産業を主な産業に、玉里地区ではレンコン、小川地区ではニラや鶏卵、美野里地区では生乳や鶏卵の生産が行われてきています。

## (4) 沿革

平成 18 年に小川町、美野里町、玉里村の 3 町村が合併し、小美玉市が誕生しました。市の名称は、旧町村の頭文字をとったもので、公募名称の中から選ばれました。

## (5) 航空自衛隊百里基地と茨城空港の歴史

百里基地は市の東側に位置しています。基地の前身は、昭和 13 年に開設された旧海軍百里ヶ原飛行場です。

第 2 次大戦後、連合軍による接收を経て、昭和 33 年に百里分屯基地が設置され、昭和 41 年に航空自衛隊百里基地（航空自衛隊百里飛行場）として発足しました。

平成22年3月に2本目滑走路が完成、官民共用化空港として茨城空港が供用開始されました。現在2700mの滑走路を2本有し、第7航空団偵察航空隊、百里救難隊等が配置されています。第7航空団は、F4E J改ファントム戦闘機の1飛行隊（第301飛行隊）の約20機を擁し、首都圏防衛の任務にあたっている実践部隊です。

## 2-2. 上位計画等

### (1) 小美玉市第2次総合計画

第2次総合計画では、まちづくりの基本理念を、「協働・連携、そしてチャレンジ」、「ふるさと・文化、そしてシビックプライド」、「人・もの・情報の交流、そして発信」として掲げています。

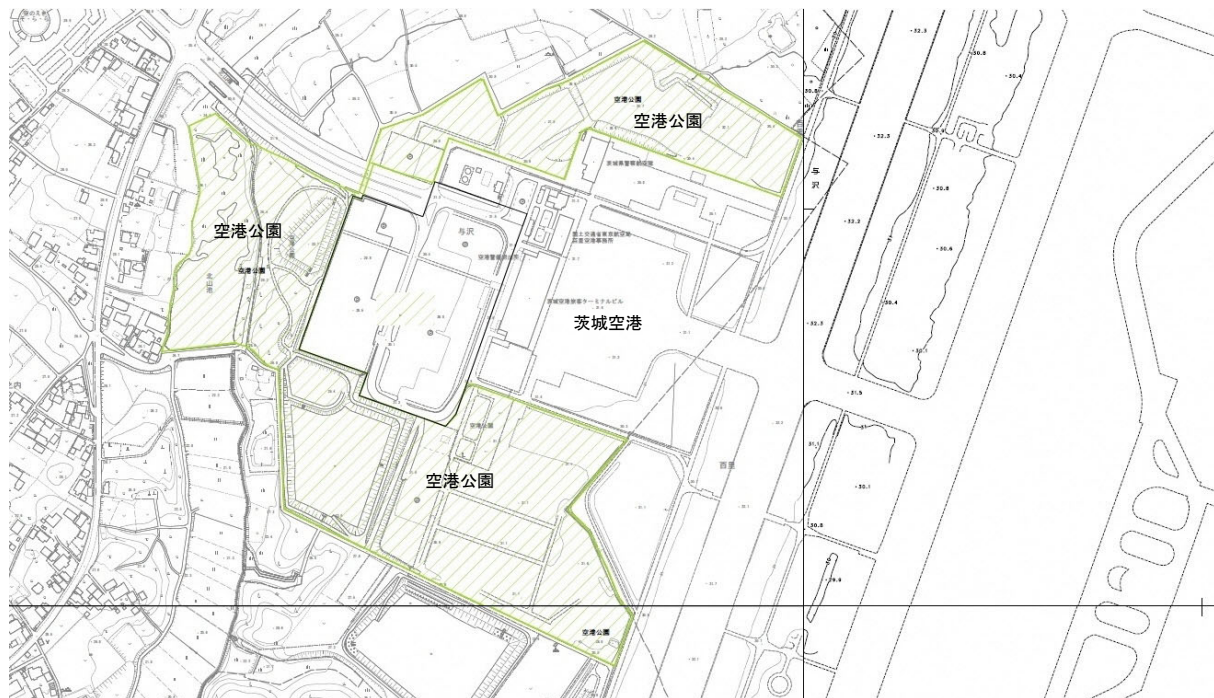
また、将来像を、

「ひともの地域」が輝きはばたくダイヤモンドシティ  
～ 見つける。みがく。光をあてる。～

と定めています。

## 2-3. 計画対象エリア周辺の位置付け

下図は、茨城空港周辺の都市計画図です。色塗り部分は空港公園と位置づけられています。





### 2-3. 百里基地と市民の交流

百里基地と市民との交流は盛んに行われています。地域の祭りやイベントに自衛隊が参加することが恒例となっており、百里飛行場利用者利便向上協議会が主催する「茨城空港『空の日』イベント」では、地上展示された車両や戦闘機を背景に記念撮影が行われるなど年々盛況さが増しています。

中でも百里基地航空祭では、日帰り・宿泊ツアーが組まれるなど、市民を含め例年10万人以上の人出で賑わいます。(参考資料：1-3. 百里基地交流イベント P. 35)

今後、市民と自衛隊員とのさらなる交流の促進を図ります。

### 3. 計画対象エリア周辺の概況

#### 3-1. 空の交流エリアの現状と課題

##### (1) 百里基地対策の成果と課題

基地周辺の地域振興と障害防止対策の観点から、防衛省の交付金・補助金を活用した各種の事業、対策が行われてきました。地域振興については、これまで道路整備及び地区公民館整備などを行ってきました。(参考資料：1-1. 防衛省関連交付金事業一覧 P. 32, 32)

その中の主だった事業は、以下の通りです。

- ・小美玉市まちづくり基金：空のえき「そ・ら・ら」におけるイベント委託
- ・小美玉市防犯対策基金：防犯灯の維持管理
- ・地区集会施設維持管理基金：地区集会施設の維持管理
- ・健康増進施設維持管理運営等事業基金：小美玉温泉ことぶきの維持管理及び運営等
- ・小美玉市道路整備基金：市道小 10911 号線の道路改良

障害防止対策については、平成 20 年に補助金交付要綱を定め、影響のある区域住民(参考資料：1-2. 騒音区域図 P. 34)を中心に、以下の補助金交付を行ってきました。

- ・テレビ電波障害対策事業：NHK受信料の減免世帯を対象に補助金を交付  
(※ 国の減免制度が一部及び全額廃止となった世帯についても、受信料の未納がない限り、引き続き補助を継続する)
- ・電話難聴対策事業：騒音値 80W以上かつ 75Wの対象世帯に補助金を交付
- ・地域運営費補助事業：上記の主な対象地域に補助金を配分して交付

また、地元実情の理解と、周辺対策の一層の充実が図れるよう北関東防衛局に陳情を行うなど、国への要望活動を積極的に行っています。

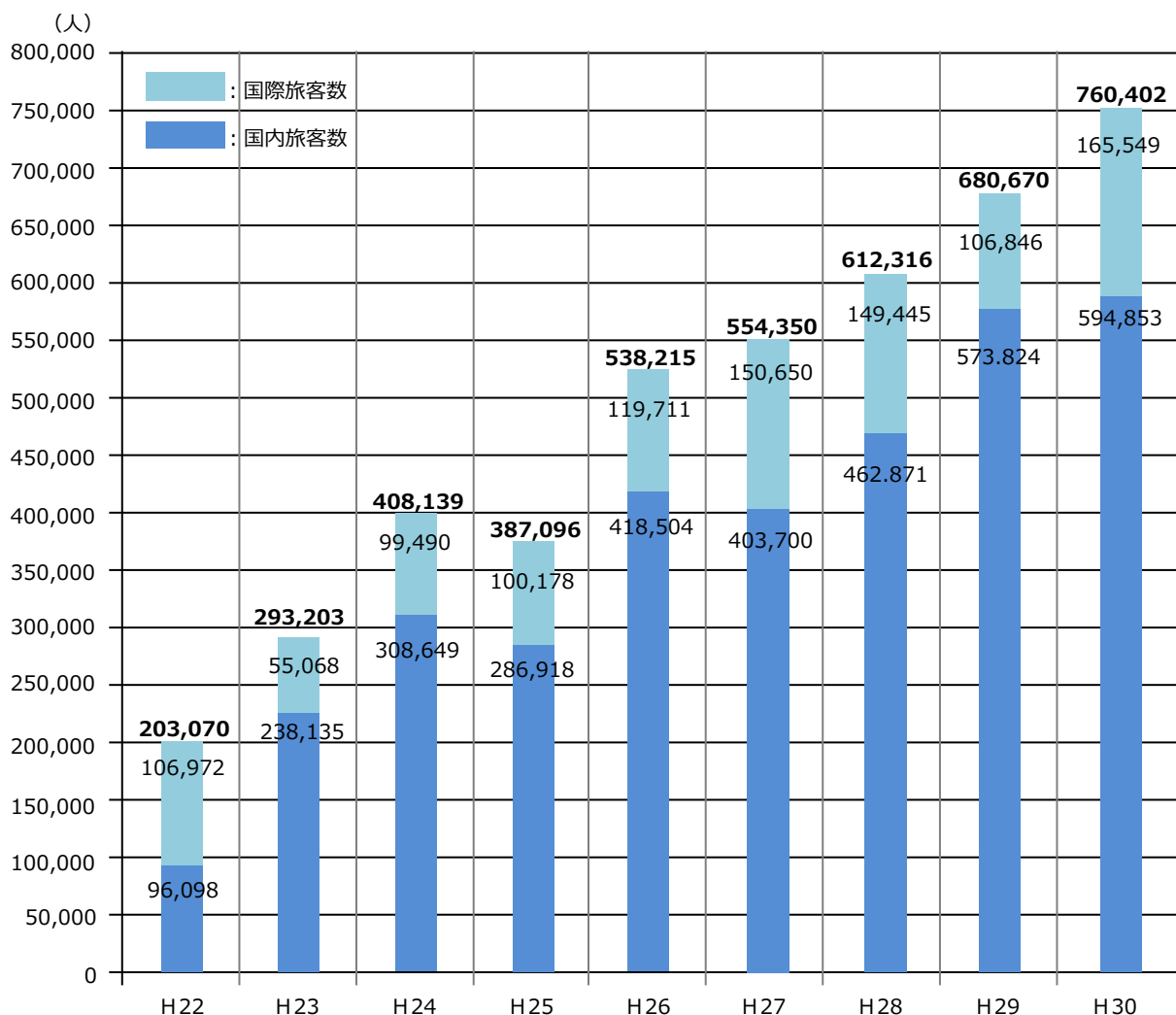
しかしながら課題も多く、道路整備については、地区要望道路が多く残っており、早期整備が望まれています。また、移転措置事業により国が取得した未利用地(緑地)についても、公益性を勘案しながら有効利用を検討していく必要があります。

同様に障害防止対策についても、基地周辺住民の不利益の改善や障害対策がさらに期待されており、住宅防音工事助成など国が実施している障害防止対策のさらなる充実を要望していくとともに、市独自の取組みについても継続していく必要があります。

(2) 茨城空港ターミナルビルの利用状況

○航空系利用者数の推移

平成 22 年からの茨城空港の搭乗実績をグラフにしたものが下図です。平成 22 年 3 月の開港から 9 年が経過し、利用者数は国内線を中心に順調に増加しています。県や市による利用促進キャンペーンによる知名度の拡大が寄与したものと考えられます。

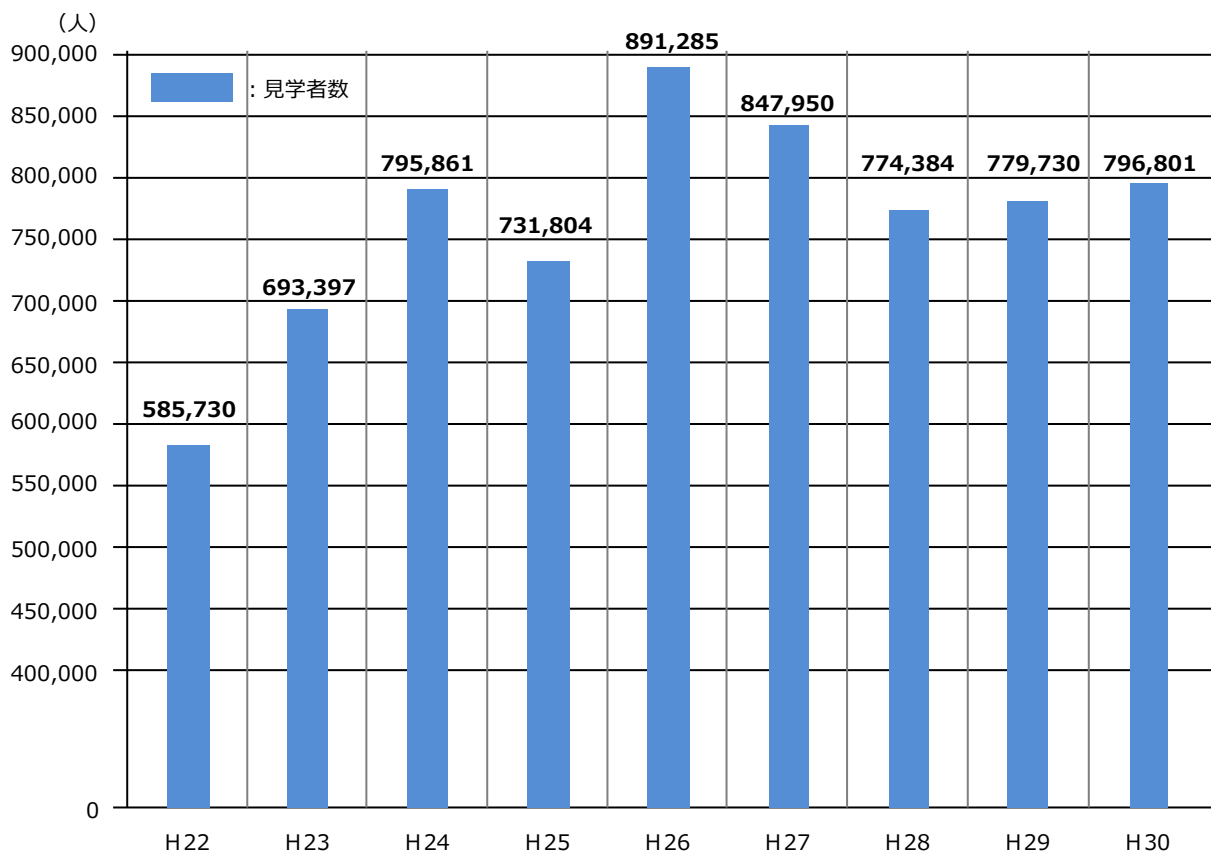


出典：東京航空局「茨城空港発着便の搭乗実績」

○非航空系利用者数の推移

平成 22 年からの茨城空港ターミナルビルの見学者数の推移をグラフにしたものが次項の図です。茨城空港は他空港に比べて来場者数に占める見学者の割合が高く、開港時は搭乗者と見学者数の比率が 3:7 となっていました。現在は搭乗者数の伸びが顕著で 5:5 の比率となっています。





\* (参考資料：1-4. 茨城空港ターミナル基礎情報\_ターミナルビル来場者数と便数 P.36)

### 〇イベント開催状況

ターミナルビル内では、チャーター便を利用した旅行商品の販促イベントのほか、本市および県、空港ビル管理事務所、周辺地域団体、地元企業、NPOが主催する様々な交流イベントや催しものが行われ、ターミナルビルの活性化に寄与しています。(参考資料：1-5. 茨城空港ターミナルビル内の各種イベント P. 37)

なかでも第12回を数える「小美玉ゆめ未来芸術展」は、定期便就航先の都市（参考資料：1-4. 茨城空港ターミナル基礎情報\_平成30年度のフライト実績 P. 36）の紹介や交流を目的に、小美玉市茨城空港利用促進協議会主催のもと、市内の小中高生、近隣市町、就航先の近隣市町村に在学する小学生を対象に行われ、毎年1,000点を超える応募があり、表彰式や移動展示会を行っています。また、茨城空港応援大使の就任や地域物産のPR等のロビーイベントも同時開催されています。



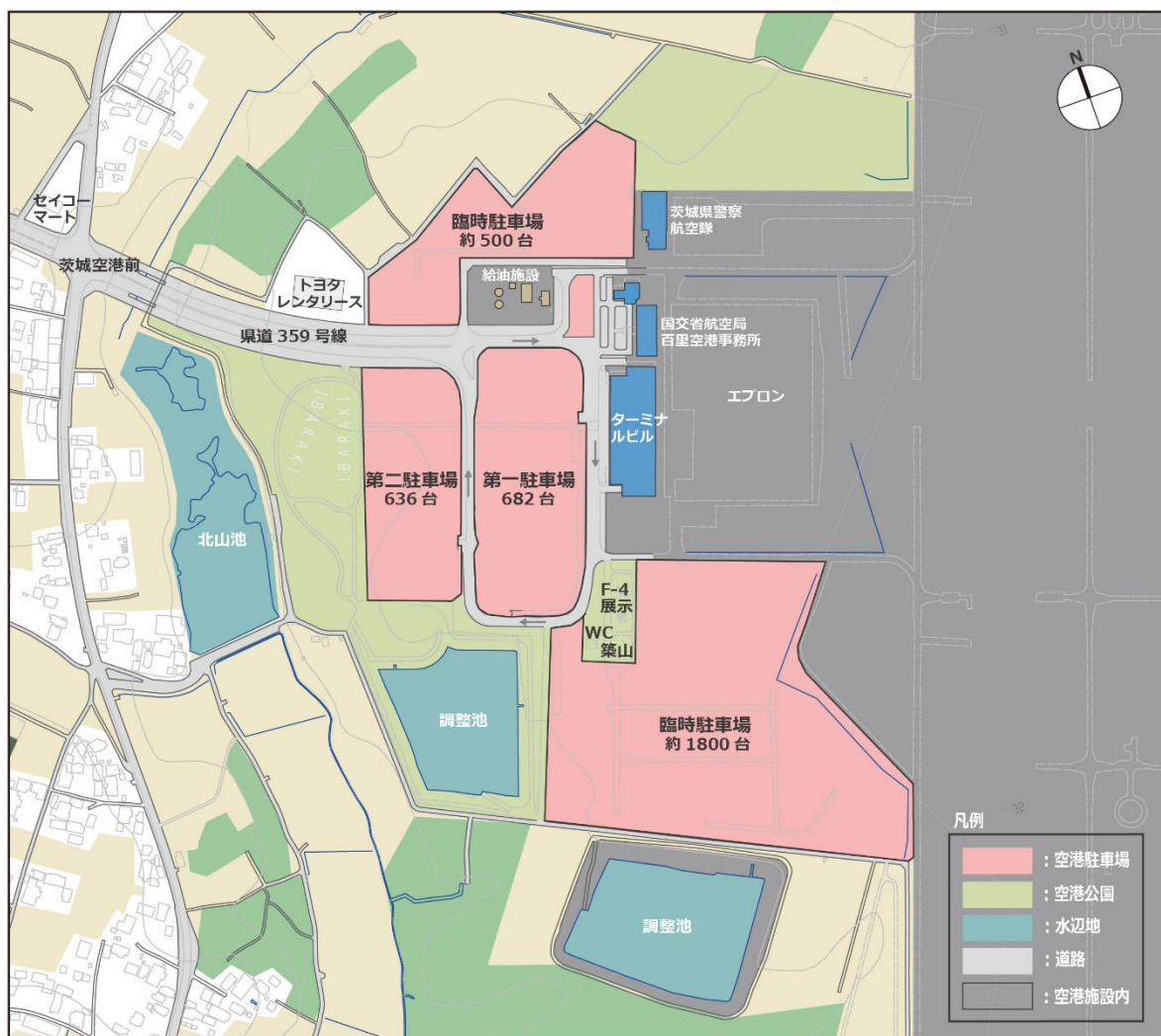
移動展示会



表彰式

### (3) 空港駐車場の利用状況

下図は、茨城空港ターミナルビル周辺の土地利用を表しています。空港駐車場の収容台数は、開港当初は第一駐車場と第二駐車場の計 1,300 台でしたが、南北の臨時駐車場がそれぞれ開設（北側の臨時駐車場は平成 30 年開設）し、現在では 3,600 台が収容可能となっています。1 日の稼働状況は、平均 1,000～1,500 台程度であるものの、多客期（GW、夏季、年末・年始）は満車に近い状況となっています。駐車料金は無料で、14 日間駐車できる上、申請を行うことで 15 日以上 の長期駐車も可能となっています。



### (4) 空港公園の利用状況

上の図において、黄緑色部分の空港公園と朱色部分の空港駐車場を合わせたエリアが、都市計画で位置づけられた都市施設としての「空港公園」です。開港当初から駐車場の整備を優先した

こともあり、現在公園となっている部分は、F-4 ファントム戦闘機が2機展示されている一面のみとなっています。展示エリアの南側には展望台を兼ねた築山があり、空港ビル内の展望デッキと共に、航空機の撮影スポットとなっています。



#### (5) 茨城空港テクノパーク誘致活動の状況

右の図は、茨城空港（百里基地）とテクノパークの位置関係を示す図です。図に示す市道小115号線が共用開始となり、テクノパークから茨城空港ターミナルビルまでは県道大和田羽生線を経由して車で約10分、東関東自動車道水戸線茨城空港北I.Cまでは県道茨城鹿島線を経由して同じく10分程度と利便性が向上しています。



右下の図は、広域位置図並びに県内の交通ネットワークを示す図です。東関東自動車道水戸線の開通は、潮来から銚田間の約31kmを残すのみとなっており、この区間も平成27年に工事着手されています。全線が開通すると、常磐道、圏央道とのネットワーク化が図られ、国際バルク戦略港湾である鹿島港や成田国際空港へのアクセスが向上し、北関東地域、東関東地域の連携・交流が強化されます。



今後、陸・海・空の広域交通網の結節点に位置する茨城空港テクノパークの優位性が高まることで、誘致活動の円滑化が期待されます。

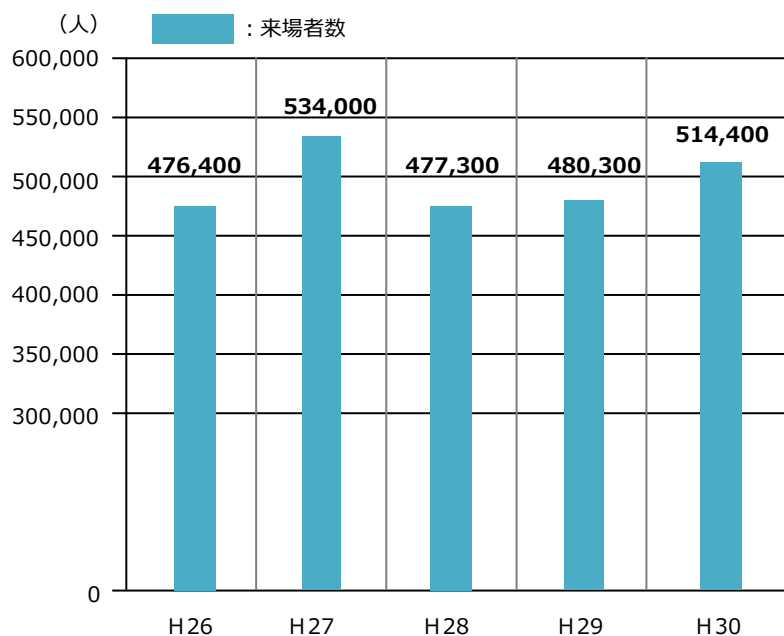


### 3-2. ゲートウェイエリアの現状と課題

#### (1) 空のえき「そ・ら・ら」の利用状況

##### ○来場数の推移

下図は、「そ・ら・ら」の来場数の推移をグラフにしたものです。オープンから5年が経過し、延べ来場者数は248万人に達しています。2年目の平成27年以降の来場者数は、空港ターミナルビル見学者数の61～65%の範囲にあり、相関関係にあることが分かります。また、平成29年と30年に実施のアンケート調査でも、空港へも行った又はこれから行くと回答した方が全体の61%～63%を占め、集計結果を裏付けています。



##### ○イベントの開催状況

次頁の図は、「そ・ら・ら」のイベント開催数の推移をグラフにしたものです。「そ・ら・ら」主催のイベントは横ばいですが、平成28年から体験教室が開催され、親子で参加できる教室も増えてきています。

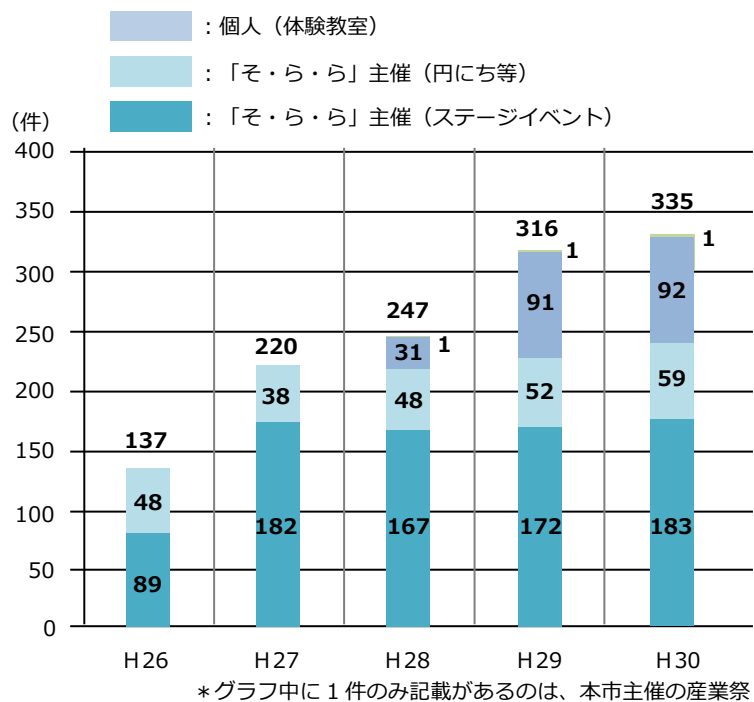
グラフ中にある「そ・ら・ら」主催の「円にち」とは、毎月第一日曜日に開催されている食に関わるイベントで、各テナントが旬の食材を使った限定メニューを提供しています。

また隣接するヨーグルトハウスで、第1回全国ヨーグルトサミット（平成30年開催）と連携した企画が行われ、サ



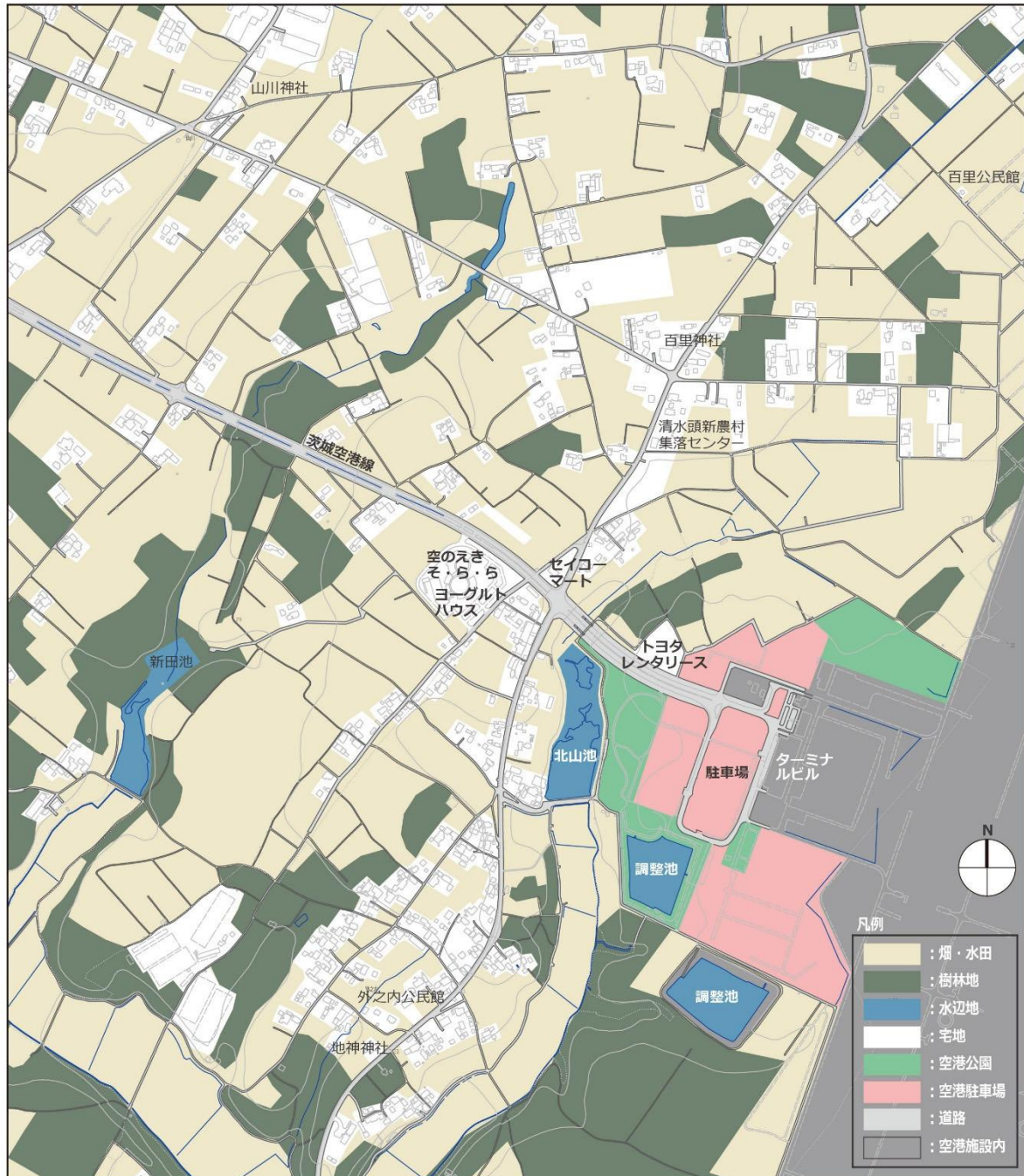
円形のイベント広場

ミット盛り上がりの一役を担いました。



(2) 周辺の土地利用状況

下図は、ゲートウェイエリアの土地利用状況を表しています。従来は、畑を中心とした農地と、谷部を利用した谷津田、平地林、沿道沿いに散発的に形成された集落でした。空港完成後は、下図が示すように茨城空港線沿いに、空のえき「そ・ら・ら」、ヨーグルトハウス、セイコーマート等の交流・商業施設、レンタカー会社等の業務施設が建ち始めていますが、開発は空港に近い沿道部分に限られ、面的な拡大には至っていません。





### 3-3. 空港アクセス沿道エリアの現状と課題

#### (1) 茨城空港アクセス道路沿道部に求められる施設

茨城空港アクセス道路の整備が進められています。当該アクセス道路完成後の茨城空港 30 分圏の変化を表現したものが下図です。合わせて、高速道路サービスエリア等（PA・SA）、主要幹線道路沿いの道の駅を図上に示しています。常磐道には、30 分圏内に PA・SA が充実していることがわかります。また、空港周辺のビジネスホテル等の宿泊施設数と客室数を調査し参考資料（1-6. 茨城空港周辺の宿泊施設 P.38）にまとめています。



## 4. 計画策定の経緯

### 4-1. 計画策定の進め方

本基本構想（案）の策定については、有識者、関係団体、議会、行政等関係者（国・県）の代表者からなる「まちづくり構想策定委員会」を設置し、検討を進めました。また、公募による「まちづくり構想ワークショップ」を開催し、市民ニーズの把握に努めました。

### 4-2. 策定委員会の実施状況

回	第1回
日時	平成31年4月26日（金曜） 10時00分～11時00分
場所	小美玉市役所 3階 委員会室
議事等	<p>会議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2. 市長挨拶</li> <li>3. まちづくり構想策定委員会委員の委嘱</li> <li>4. 委員長の選出</li> <li>5. 委員長の挨拶</li> <li>6. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) まちづくり構想策定の経緯及び概要について</li> <li>2) 対象エリアの現状と課題について</li> <li>3) 策定スケジュールについて</li> <li>4) その他</li> </ol> </li> </ol>
配布資料	<p>【資料1】まちづくり構想策定委員会設置要綱</p> <p>【資料2】まちづくり構想策定委員会名簿</p> <p>【資料3】まちづくり構想策定の概要について</p> <p>【資料4】対象エリアの現状と課題について</p> <p>【資料5】参考資料</p> <p>【資料6】まちづくり構想策定スケジュール</p>
報告内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 空の交流エリアの現状と課題</li> <li>2. ゲートウェイエリアの現状と課題</li> <li>3. 空港アクセス道路沿道エリアの現状と課題</li> </ol>



回	第2回
日時	令和元年11月6日(水曜) 14時00分～15時30分
場所	小美玉市役所 3階 委員会室
議事等	<p>会議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2. 委員長挨拶</li> <li>3. 協議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) まちづくり構想整備構想案について</li> <li>2) その他</li> </ol> </li> </ol>
配布資料	<p>【資料1】 空港周辺エリア整備構想案【イメージ図】</p> <p>【資料2】 空港周辺エリア整備構想案概要説明文</p> <p>【資料3】 まちづくり構想ワークショップ報告書</p>
構想(案)の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空のえき「そ・ら・ら」の拡張案(YS11の展示、つくば霞ヶ浦りんりんロードのゲートウェイ施設、BBQ広場を含む施設拡張案)</li> <li>・そらら参道プロジェクト(空港～「そ・ら・ら」間のプロムナード化、自動運転車の試走路整備、古民家カフェの提案等)</li> <li>・Jフロント構想(自衛隊広報・交流施設等の整備構想案)</li> <li>・エコトープ構想(北山池周辺利用の構想案と修景のイメージ)</li> </ul>

#### 4-3. ワークショップの実施状況

日時	令和元年7月11日(木曜) 18時00分～20時15分
場所	小美玉市役所 2階 第2・3会議室
参加者数	公募等による15名(3班)
開催趣旨	百里飛行場及び茨城空港を核としたまちづくり構想策定にあたり、「空の交流エリア」「ゲートウェイエリア」の活性化をテーマとし、幅広く具体的なアイデアを求めた。
テーマ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小美玉市の「強み」と「弱み」</li> <li>2. 小美玉市にはどのような人が、どのような目的で訪れているか</li> <li>3. 小美玉市が特別な場所になるには、何をすれば(つくれば)よいか</li> </ol>

開催状況



### Ⅲ. 基本構想

#### 5. 基本理念等

##### 5-1. 基本理念

上位計画・関連計画および3つのエリアの位置づけと、ワークショップや策定委員会の意見を踏まえて、基本理念を次のとおりとします。

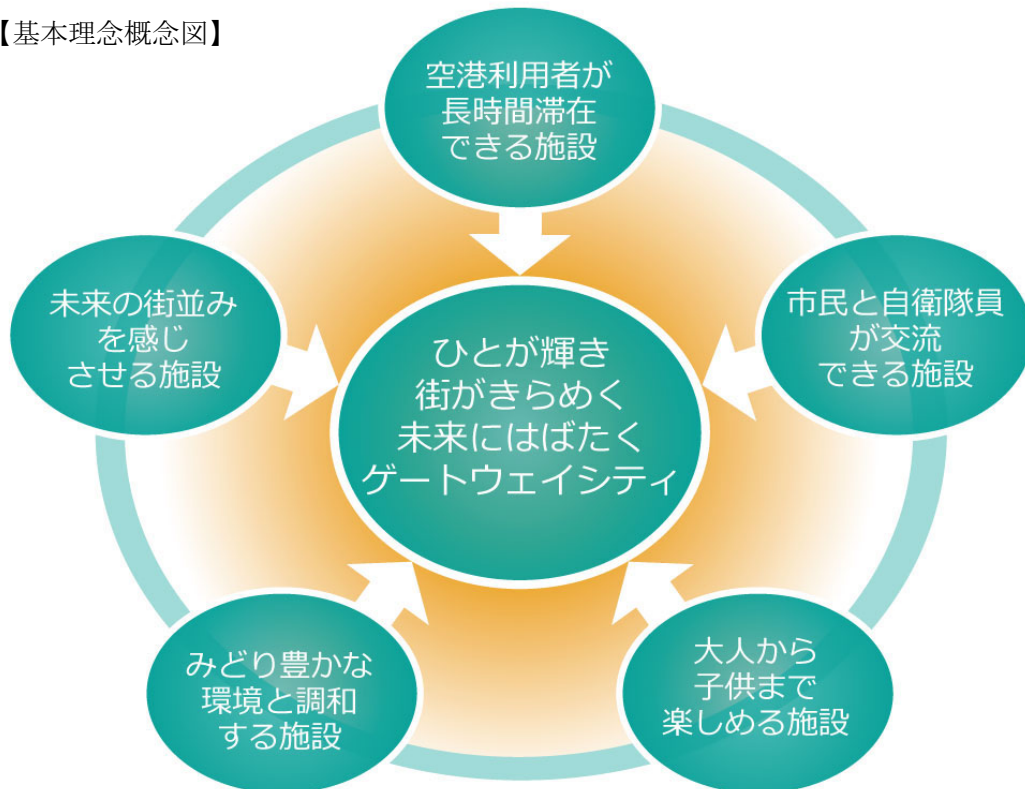
- 空港利用者が長時間滞在できる施設
- 市民と自衛隊員が交流できる施設
- 大人から子供まで楽しめる施設
- みどり豊かな環境と調和する施設
- 未来の街並みを感じさせる施設



【基本理念】

ひとが輝き、街がきらめく、未来にはばたくゲートウェイシティ

【基本理念概念図】



## 5-2. 基本目標

基本理念に則り、各エリアの基本目標を次のとおりとします。

### (1)「空の交流エリア」の基本目標

茨城空港ターミナルビルと茨城空港テクノパークがあるこのエリアは、あらたな交流拠点の形成によって、交流人口の拡大と情報発信力を高め、空港利用と産業立地の促進による地域振興を図ります。

また、周辺の自然環境を保全しつつ、多くの人々が利用できる公園整備を推進します。

あらたな交流拠点となる施設の基本目標を次のとおりとします。

#### ○空港利用者が長時間滞在できる施設づくり

- ・ 空港関係者や地元の様々なニーズに対応できる広い空間を有し、茨城空港ターミナルビルで開催されるイベントとの連携が可能となる施設
- ・ 飛行場を離着陸する航空機が展望できるなど、開放性の高い周辺環境を活かせる施設

#### ○市民と自衛隊員が交流できる施設づくり

- ・ 自衛隊の広報機能を有し、自衛隊員との交流イベントを開催するのにふさわしい施設
- ・ 百里基地の戦闘機が展示されるなど基地との親和性を高めた施設

#### ○大人から子供まで楽しめる施設づくり

- ・ 市内外の人々が訪れ、1日を通して楽しめるレクリエーション関連施設
- ・ 乳幼児連れの方や高齢者、障がいのある方まで誰もが利用しやすい施設

#### ○みどり豊かな環境と調和する施設づくり

- ・ 谷津ならではの特徴的な地形と生態系を保全し、憩いの場として活用できる施設
- ・ 北山池の護岸を整備し、安心安全を担保した親水施設

### (2)「ゲートウェイエリア」の基本目標

空のえき「そ・ら・ら」があるこのエリアは、「そ・ら・ら」の機能拡張による利便性向上によって、人の吸引力をいっそう高め、通過型の街から滞在型の街への移行を目指すと共に、北関東の空の玄関口にふさわしい魅力的で快適な街並みづくりを行います。

あらたな街づくりを構成する施設の基本目標を次のとおりとします。

#### ○空港利用者が長時間滞在できる施設づくり

- ・滞在化の促進と、賑わいの拡散を目的にした「そ・ら・ら」の機能拡張
- ・周辺施設との連動性を高め、アクセス力を高めた施設

○大人から子供まで楽しめる施設づくり

- ・市内外の人が訪れ、1日を通して楽しめる体験型の施設
- ・乳幼児連れの方や高齢者、障がいのある方まで誰もが利用しやすい施設

○未来の街並みを感じさせる施設づくり

- ・低速モビリティ\*1や自動運転などの移動の新しい価値を提供する施設
- ・茨城空港に至るメインストリートにふさわしい都市景観を有する施設

### (3)「空港アクセス沿道エリア」の基本目標

現況が、農地や林野地が大半を占めている茨城空港アクセス道路の沿道エリアは、農地のもつ緑地としての機能や、農業・酪農体験の場としての機能等を再評価した上で、施設を集団的に整備するゾーンや沿道農地として活用するゾーンなど、それぞれが調和した土地利用を実現することで、均衡ある地域振興を図ります。

アクセス道路にふさわしい沿道施設の基本目標を次のとおりとします。

○空港利用者が長時間滞在できる施設づくり

- ・滞在者の受け入れ力強化と茨城空港の利用促進につながる宿泊施設
- ・アクセス道路沿道に求められるサービス機能が充実した商業施設

○みどり豊かな環境と調和する施設づくり

- ・茨城空港から筑波山を結ぶ景観軸を意識したデザインの沿道施設
- ・沿道周辺におけるグリーンツーリズム\*2の模索

---

\*1 低速モビリティ・・・自動車よりコンパクトで小回りが利き、地域の手軽な移動の足となる車両。

\*2 グリーンツーリズム・・・都市居住者などが農場や農村で休暇・余暇を過ごすこと。

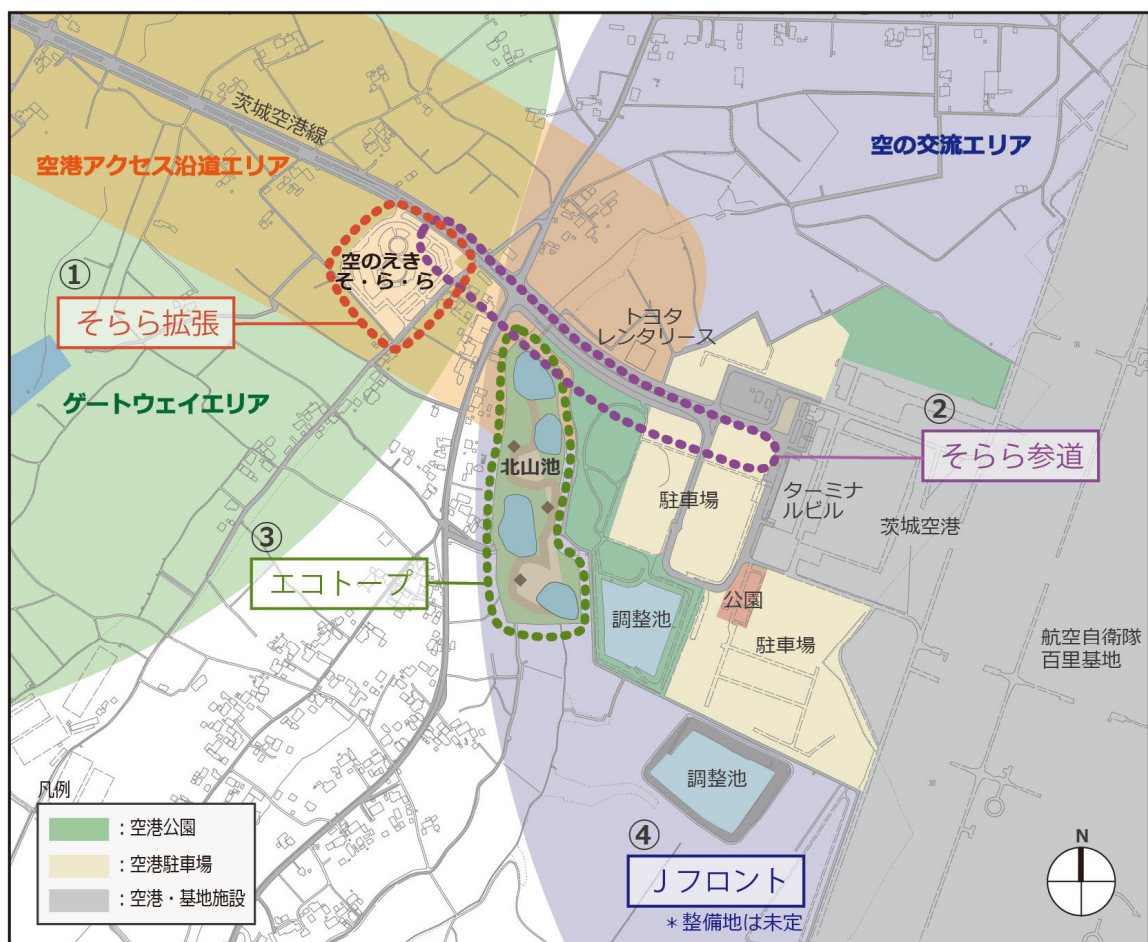
## 5-3. 取組方針

第2次総合計画には、各エリアはネットワークの形成を図るべきとされています。また、1-4. 計画対象エリアの概要で示した通り、茨城空港周辺の各エリアは、隣接もしくは一部重なり合い、相補的な関係にあると言えます。

本構想においては、エリア間の連携を図る上で最適な場所を整備（候補）地として選定し、まちづくりの中核をなす次の4つの構想を検討しました。

- ① 「そらら拡張」構想
- ② 「そらら参道」構想
- ③ 「エコトープ」構想
- ④ 「Jフロント」構想（整備地は未定）

各エリア内における構想の整備地とそれらの位置関係を次に示します。



次に、各構想のテーマ及びイメージ図とその概要を示します。



## (1)「そらら拡張」構想の概要

### ①テーマ

～街の要となる空のえき「そ・ら・ら」の拡張と機能強化～

### ②イメージ図



りんりんロード\* : つくば霞ヶ浦りんりんロード

### ③整備項目とその概要

#### ●旅客機の展示と休憩施設

アクセス道路から視認しやすい北東側に航空自衛隊保有最終号機となる YS11 を展示するなどし、空港導入エリアとしてのゲート性を強化し、ここにしかない街の魅力を生み出します。

YS11 を鑑賞するオープンカフェなどの活動拠点の整備により、滞在化の促進と、周辺へ賑わいの拡散を図ります。

#### ●自動運転車試走路

アクセス道路に平行して新たなモビリティサービスを整備するなど、空港ターミナルビル及び駐車場と「そらら」間の距離の障壁を取り除くと共に、次世代の乗り物が往来する未来型市街地として国内外に発信します。

#### ●BBQ 広場とチーズ工房

「そらら」の敷地を拡張し、「農業・酪農からの贈り物」をコンセプトに、直売所で

買った食材を持ち込んで調理できる BBQ 広場、新鮮なミルクからチーズ作りが楽しめる体験型チーズ工房などの体験型施設の整備を推進します。

●つくば霞ヶ浦りんりんロード補完施設

つくば霞ヶ浦りんりんロードのレンタサイクルに加え、カフェ、コース案内、休憩、更衣（ロッカ室+シャワー室）等リフレッシュエリアを充実させ、日本を代表するサイクリングロードの拠点にふさわしいアメニティ機能を完備します。

(2)「そらら参道」構想の概要

①テーマ

～空港と「そ・ら・ら」間のリニアな街並みの形成～

②イメージ図





## ③整備項目とその概要

## ●歩行者空間のプロムナード化

空港ターミナルビルから「そ・ら・ら」に至る約 800mの既存の歩行者空間を、街路樹、ストリートファニチャ\*1、魅力的な舗石等でプロムナード\*2として再整備するなど、ゲートウェイエリアの都市景観としての基本軸を形成します。

## ●沿道整備による歩行者ネットワーク

上記プロムナードを「そらら参道（通称「そら参」）」と命名し、沿道にカフェや足湯、体験型工房や県のアンテナショップなどの時間の充足を楽しめる施設を配置します。街道をイメージした街並みの形成を目指し、市内から空き家となった古民家を移築・再利用などを提案します。

室内の雰囲気を通りからも感じられる設えとし、賑わいと活力に満ちた歩行者ネットワークを形成します。

## ●歩行者と自動運転車の共存のかたち

試走路の一部に低速ゾーンを設け、歩・車道の境界を波型にするなど市街地における自動運転車と歩行者の新たな共存のかたち（無人タクシーが手荷物の多い歩行者を見つけて目の前で停車するなど）を提案します。



プロムナードのイメージ

\*1 ストリートファニチャ・・・街路や広場などに設置される街灯・ベンチ・案内板など屋外装置物の総称。

\*2 プロムナード・・・フランス語で「散歩」あるいは「散歩の場所」（散歩道・遊歩道）を意味する語。都市部では、自動車を気にせず街歩きができる潤い豊かな外部空間として整備されている。

### (3)「エコトープ」構想の概要

#### ①テーマ

～北山池を共生型ヒーリングスポットとして再生～

#### ②イメージ図



#### ③整備項目とその概要

##### ●魅力ある親水空間の形成

トンボなどの谷津の貴重な生物と、当地域に多い特徴的な地形を保全・復元しつつ、生態系（ビオトープ）に配慮した護岸整備や水生生物の観察・散策のための橋を整備するなど、ここを訪れる人たちが見て触れて癒しを得る環境共生型のヒーリングスポット\*1の創出を図ります。

##### ●市内外の人たちが憩える施設

水辺での憩いをより満喫する施設として手漕ぎボートなどの貸出しや、航空機利用者の疲れを癒すと共に、地域の大人も子供も楽しめるハンモックフィールドなどのレジャー機能の整備により、滞在型の親水公園づくりを目指します。

---

\*1 ヒーリングスポット・・・癒しを意味する「ヒーリング」と、場所を意味する「スポット」からなる造語。とくに、都市生活による疲れやストレスなどから、心と体の健康回復を目的に提供される場所を指す。

---



#### (4)「Jフロント」構想の概要

##### ①テーマ

～自衛隊（陸・海・空）の広報と市民との交流を核としたレクリエーション施設～

##### ②イメージ図



\*整備地は未定です

##### ③整備項目とその概要

###### ●広報・交流館

陸海空自衛隊の広報・交流機能を施設の中核として整備します。具体的には、市や県にゆかりのある自衛隊の活動をアーカイブするギャラリーやミュージアムのほか、自衛隊主催のイベント開催の場となる多目的ホール、自衛隊関連グッズを販売するミリタリーショップなどの他、最新のVR（仮想現実）・AR（拡張現実）・MR（複合現実）技術も駆使し、臨場感にあふれた体験型施設を目指します。

###### ●雄飛園の航空機を展示

百里基地内にある雄飛園の航空機（F-1、F-4など8機）の貸与を受け展示し、基地との親和性を演出するとともに、将来的に貸与が想定される航空機の展示スペースも確保し、歴史資料館としての魅力も高め、マニアへの吸引力と情報発信力を高めます。

###### ●展望デッキ

屋上を展望デッキとして開放し、百里基地で離着陸する戦闘機の見学を可能とするとともに、屋外イベント広場との連続性も確保し、航空祭のサブステージとして活用する等様々

なニーズに応えます。また、「そ・ら・ら」とも連携し、共同イベントや祭りに参画できるよう地域に開放された施設づくりを行います。

●充実したレクリエーション施設

大人から子供まで1日を通して楽しめる施設づくりを目指し、広報・交流館の周辺に、ドローン練習（教習）所、サバゲーフィールド\*1、アスレチック広場、ドッグラン等を整備します。

●施設整備方針

この施設の整備については、国・県が主体となった整備への働きかけや、コンセッション方式\*2のPFI事業\*3などの民間事業者による整備も視野に入れた誘致を目指します。

---

\*1 サバゲーフィールド・・・サバゲーとは、サバイバルゲーム（主にエアソフトガンとBB弾を使って行う、戦闘を模す日本発祥の遊び、あるいは競技）の略で、サバゲーフィールドとは、サバイバルゲームを行う屋内又は屋外の施設のこと。

\*2 コンセッション方式・・・公共施設の所有権を国や自治体に残したまま、長期間の運営権を民間事業者に売却する形の民営化事業の方式。

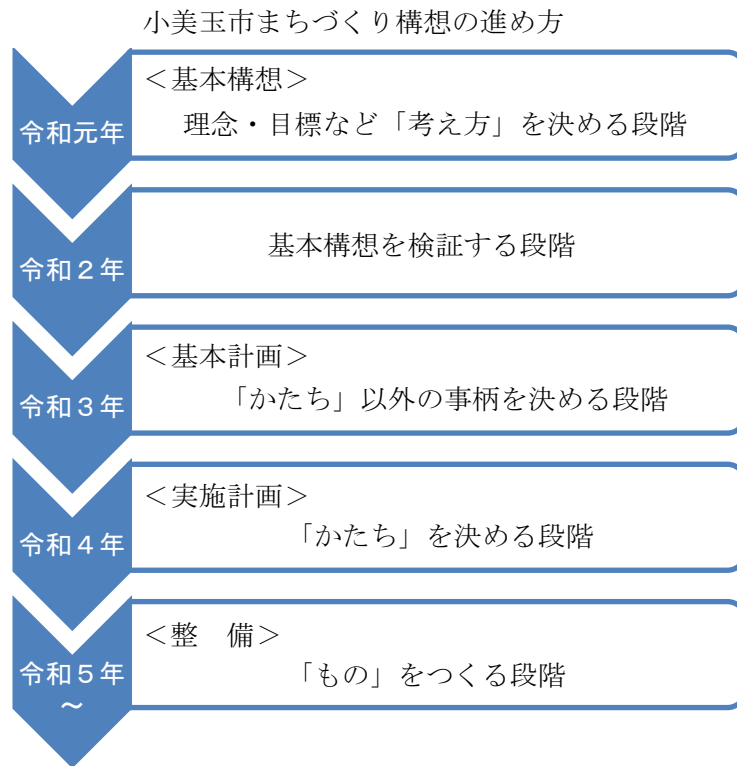
\*3 PFI事業・・・公共施設等の建設、維持管理、運営等に民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することにより、同一水準のサービスをより安く、又は同一価格でより上質のサービスを提供する事業。

(5) エリア全体の完成イメージ



## 6. 今後の進め方

策定委員会での議論等を踏まえて、構想の実現に向けて、今後以下の通りに検討を進めます。



## 參考資料



1. 現状調査補足資料

1-1. 防衛省関連交付金事業一覧

○再編交付金事業基金

名 称	事業の目的	事業内容	事業の始期及び終期	事業に要する経費の総額(円)	交付を受けた交付金の額(円)
小美玉市まちづくり基金	住民参加活動支援事業、生涯学習推進事業及びイベント支援事業を行い住民の生活環境の向上や地域の振興に寄与する	① 基地周辺整備協議会活動に伴うバス借上の視察助成及び基地周辺住民への除草剤・殺鼠剤配布 ② 小川図書館に備える図書、CD 及び DVD の購入 ③ 空の駅「そ・ら・ら」におけるイベント委託経費	平成 20 年 3 月から平成 32 年 3 月まで	71,828,892	平成 19 年度： 23,750,000 平成 20 年度： 15,000,000 平成 24 年度： 9,400,000 平成 26 年度： 11,000,000 平成 28 年度： 10,000,000
小美玉市防犯対策基金	防犯灯の適切な維持管理等を行い、住民生活の安全の向上を図る	防犯灯の電気料など維持管理に必要な資金を積み立てるため	平成 20 年 3 月から平成 34 年 3 月まで	54,149,133	平成 19 年度： 4,750,000 平成 20 年度： 10,277,000 平成 21 年度： 18,442,000 平成 23 年度： 10,000,000 平成 24 年度： 10,400,000
小美玉市防災対策基金	防災訓練等を実施し大規模災害時の円滑な対応を図る	防災訓練等の対象事業に必要な資金を積み立てるため	平成 21 年 3 月から平成 32 年 3 月まで	10,965,988	平成 20 年度： 10,000,000
小美玉市地区集会施設維持管理基金	地区集会施設の適切な維持管理を行い、教育・スポーツ及び文化の振興を図る	地区集会施設の光熱水費及び修繕費などの維持管理に必要な資金を積み立てるため	平成 21 年 3 月から平成 47 年 3 月まで	97,760,919	平成 20 年度： 20,000,000 平成 21 年度： 10,000,000 平成 23 年度： 10,000,000 平成 24 年度： 10,000,000 平成 28 年度： 18,385,000

※再編交付金は、「駐留軍等円滑な実施に関する特別措置法(平成 19 年度より 10 年間時限立法)」により在日米軍の再編に伴い影響を受ける市町村に対し国から交付される交付金です。市町村が行う公共施設の整備その他住民の生活利便性の向上及び産業振興に寄与する事業を行うための費用に充てることができます。



○特定防衛施設周辺整備調整交付事業基金

名 称	事業の目的	事業内容	事業の始期及び終期	事業に要する経費の総額(円)	交付を受けた交付金の額(円)
小美玉市道路整備基金(市道小10911号線道路改良事業)	市道小10911号線道路改良事業に必要な資金を積み立て、交通の円滑化及び利便性の向上を図る	市道小10911号線道路改良事業(用地取得等、物件補償、舗装工事)	平成24年3月から平成33年3月まで	939,702,120	平成23年度: 134,000,000 平成24年度: 151,000,000 平成25年度: 122,000,000 平成26年度: 83,343,000 平成27年度: 89,021,000 平成28年度: 53,322,000 平成29年度: 43,176,000
小美玉市公共バス整備基金	公共用バスの整備に必要な資金を積み立て、地域住民の社会福祉活動の充実を図る	市が所有する公共用バスの修繕及び更新	平成26年3月から平成36年3月まで	76,081,264	平成25年度: 8,900,000 平成26年度: 8,000,000 平成27年度: 20,000,000 平成28年度: 9,680,000 平成29年度: 6,000,000
小美玉市教育活動支援基金	教育活動の支援に必要な資金を積み立て、教育内容の充実を図る	自然教室、陸上記録会、音楽のつどい等の事業において児童・生徒の参加を必要とする事業に伴う自動車借上	平成28年3月から平成38年3月まで	225,000,000	平成27年度: 30,000,000

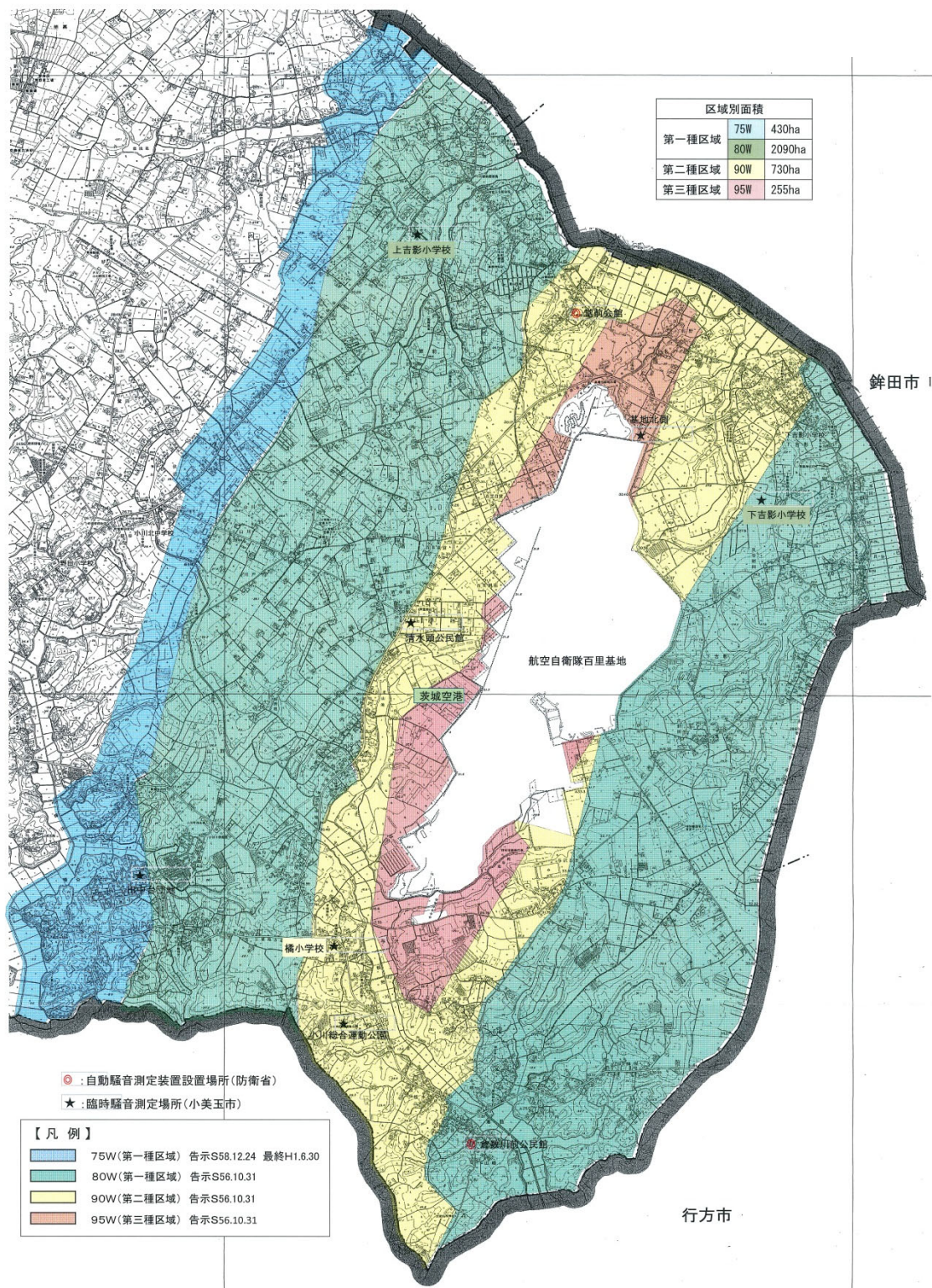
※特定防衛施設周辺整備調整交付金「防衛施設周辺生活環境の整備等に関する法律第9条」により特定防衛施設(百里基地)の設置又は運用に伴う生活環境や周辺地域の開発に及ぼす影響の軽減等を図るため、国から交付される交付金です。市町村が行う公共用の施設の整備や特定事業を行うための費用に充てることができます。

○再編関連訓練移転等交付事業基金

名 称	事業の目的	事業内容	事業の始期及び終期	事業に要する経費の総額(円)	交付を受けた交付金の額(円)
健康増進施設維持管理運営等事業基金	健康増進施設を安定的に維持、管理運営することで、市民の健康及び福祉の増進を図る	健康増進施設(小美玉温泉ことぶき)の維持管理及び運営等に係る事業	平成30年3月から平成40年3月まで	349,000,000	平成29年度: 31,142,000 平成30年度: 18,423,000
地域公共交通対策事業基金	遠距離通学児童の通学への負担軽減を図る。また、交通弱者の公共施設、病院等への移動手段として、地域公共交通対策事業を実施し、住民の社会生活の基盤とする	① 公共交通実証運行事業 ② スクールバス運行事業	平成30年3月から平成43年3月まで	625,000,000	平成29年度: 30,000,000

※再編関連訓練移転等交付金は、「再編関連訓練移転等交付金交付要綱」により在日米軍の再編に伴い影響を受ける市町村に対し国から交付される交付金です。市町村が行う公共施設の整備その他の住民の生活の安定に寄与する事業を行うための費用に充てることができます。

1-2. 騒音区域図





### 1-3. 百里基地交流イベント

#### ○百里基地と市民との交流

##### 1) 百里基地航空祭

・3年に一度の航空観閲式が行われない年に開催されている。2019年は12月1日(日)に開催された。市民のほか全国の航空ファンなどが10万人以上訪れる基地の最大イベントである。航空自衛隊のアクロバット飛行チーム「ブルーインパルス」の参加が恒例となっているほか、百里基地に配備されているF-4、RF-4、F-15、T-4の展示飛行、救難隊の救難展示なども実施されている。2018年から渋滞解消のため敷地内の自家用車向け臨時駐車場が廃止され、石岡駅からのシャトルバスが運行されている。



##### 2) 雄飛園

・百里基地の正門を入った西側にある一般者向け展示スペースで、退役したF-104、T-33、F-86、RF-4、F-4等の航空機8機を展示している。週末を含め午前9時から午後4時までの間、基地が通常態勢であれば見学できる。また、隣接して広報館があり、百里基地の歴史を知ることができるほか、航空機の模型、写真、操縦桿、ヘルメット等の展示がある。ただし見学は申込制となっている。



##### 3) 百里基地音楽祭

・音楽を通じて百里基地及び航空自衛隊に対する理解と信頼向上を目的として、年に1度開催されている。2019年は8月3日(土)に、第21回となる音楽祭が小川文化センター「アピオス」の大ホール(収容人数:1200人)で行われ、市民や地域住人の方々が多数集まる中、航空中央音楽隊の演奏が行われた。



## 1-4. 茨城空港ターミナル基礎情報

## ○ターミナルビル来場者数と便数

1) 平均来場者数（搭乗者数＋見学者数）	
・開港からの1日当り平均来場者数：	3,459人
・H31年3月の1日当り平均来場者数：	4,435人
前月比	217人
2) 平均搭乗者数	
・開港からの1日当り平均搭乗者数：	1,338人
・H31年3月の1日当り平均搭乗者数：	2,325人
前月比	293人
3) 平均便数（出発・到着で2便、出発もしくは到着のみは1便）	
・開港からの1日当り平均便数：	11.0便
・H31年3月の1日当り平均便数：	15.3便

## ○平成30年度のフライト実績

1) 定期便	
・スカイマーク（札幌、神戸、福岡、那覇）	4,339便
・春秋航空（上海）	626便
・タイガーエア台湾（台北）	208便
・イースター（ソウル）	206便
2) チャーター便	
・フジドリームエアライン（長崎、種子島）	61便
・ベトジェットエア（ホーチミン）	4便
計	5,444便
	(1日平均：14.9便)

## 1-5. 茨城空港ターミナルビル内の各種イベント

### ○小美玉市・茨城空港ホームページから抜粋

<p>1) 夜空コン(そらコン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>茨城空港と「そ・ら・ら」を巡り、航空自衛隊員も多数参加する日本最大規模（男女 400 名）の街コン。2019 年は、10 月 14 日（月・祝日）に開催された。</li> </ul> <p>主催：小美玉市茨城空港利用促進協議会 いばらき KIZUKU プロジェクト MITO コン実行委員会 小美玉市（子ども福祉課）</p>	 <p>A photograph showing a large group of people sitting at tables outdoors at night, participating in a street concert. The scene is illuminated by streetlights and the sky is dark.</p>
<p>2) 開港記念イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空港の開港を記念して行われるイベント。2019 年は、9 周年記念イベントが、3 月 10 日（日）に行われ、バックヤードツアーや大抽選会、制服試着体験、スタンプラリー、ワークショップ等の催しが行われた。</li> </ul> <p>主催：茨城空港利用促進協議会 空港ビル管理事務所</p>	 <p>A photograph of an airport tarmac area where several people are gathered. A small aircraft is visible in the background, and a white van with 'SKY' written on it is parked nearby.</p>
<p>3) 空の日イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民間航空再開 40 周年にあたる平成 4 年に設けられた「空の旬間」9/20～30 に合わせて開催されるイベントで、ステージイベント、スカイスリーフェスタ、GSE 車両展示、体験乗車、スカイマーク地上職場体験、抽選会などの催しが行われる。2019 年は、9 月 23 日（月・祝日）に開催された。</li> </ul> <p>主催：百里飛行場（茨城空港）利用者利便向上協議会</p>	 <p>A photograph showing a large outdoor gathering of people sitting on benches. In the background, there are tall light poles and a clear sky, suggesting an open-air event space.</p>
<p>4) 季節のイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひなまつり、クリスマス、正月など季節ごとに様々なイベントが開催されている。2019 年のクリスマス期間には、高さ 4m のクリスマスツリーがロビーに展示されたほか、フィンランド・ラップランド州公認のサンタクロースを招いた握手・記念撮影会が開かれた。</li> </ul> <p>主催：空港ビル管理事務所</p>	 <p>A photograph of a person dressed as Santa Claus in a red suit and white beard, standing on a red carpet. A child in a white winter outfit is kneeling and talking to Santa. Another person in a Santa hat is also visible.</p>
<p>5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空港フォトコンテスト、茨城空港ガルパン応援計画イベント、「納豆バス」お披露目イベント、科学フェスタ in 茨城空港、ガルパンラッピングバスの運行、鹿島アントラーズ応援イベント、就航都市 PR イベント（台湾、沖縄、神戸等）、チャーター便 PR イベント（種子島等）</li> </ul>	



1-6. 茨城空港周辺の宿泊施設

○茨城空港30分圏内にある宿泊施設(ビジネスホテル・シティホテル・旅館・民宿)と客室数(収容人員)



## 2. 策定委員会の趣旨

### 2-1. 趣旨・目的

本市では「小美玉市第2次総合計画」（平成30年度～令和9年度）のまちづくり将来像である『「ひともの地域」が輝きはばたくダイヤモンドシティ～見つける。みがく。光をあてる。～』を実現するため、基本目標として「みんなの力で磨くまちづくり」、「安全・安心な生活を支える体制づくり」など五つの基本目標を掲げ、「茨城空港の利活用」「観光の振興」や「基地対策の充実」「防災対策の充実」などの施策を展開しています。

このたび、国の補助事業である「まちづくり構想策定支援事業」の採択を受け、本市では小美玉市第2次総合計画にある基本理念のうち「人・もの・情報の交流、そして発信」をふまえ、土地利用構想で示している「空の交流エリア」「ゲートウェイエリア」の二つのエリアについて、百里飛行場並びに茨城空港を核とした民間活力の誘致や交流人口の拡大を図るための賑わいづくり、飛行場と地域住民が共存していくための取り組みや交流促進、そして災害に強いまちづくりの推進を目的として構想を策定するものです。

### 2-2. 事業背景

本市では航空自衛隊百里基地を抱え、これまで基地と市民の交流並びに、市民の安全安心な生活の安定を図るため、防衛省の補助事業を活用し、道路・学校・社会福祉施設・地区公民館の整備等、様々な事業を進めてきました。

平成22年3月に航空自衛隊との共用空港として開港した茨城空港は、これまで旅客数並びに就航路線を着実に増やしており、旅客数は平成30年度末時点で累計400万人を突破し、国内線定期路線は4ヶ所12便、国際線定期路線は3ヶ所6便となっています。

そのような中、年間70万人もの来訪者が空港利用のみで、小美玉市を素通りしている状況を打開するため、地域の賑わいづくりと当市の地域特性を活かした来訪者に魅力ある施設の整備や民間活力の誘致を推進し、当市の発展と魅力あるまちづくりを目指します。

### 3. 策定委員会で委員から出された主な意見

#### 3-1. 第1回委員会で委員から出された主な意見

(1) まちづくり構想策定の経緯及び概要について

- ・テクノパークに関して、引き合い状況はどうなっているか
- ・ワークショップの日程については、どのようになっているか

(2) 対象エリアの現状と課題について

- ・これまで国際線の誘致に力を注いできた。台湾や韓国便の大多数は外国人利用者で、その方々から、茨城空港の名産は何かあるのかとよく聞かれた。小美玉市の魅力は掘り出そうとすれば結構でてるのではないかと思っている。
- ・空港から素通りされないためにはどうすればよいか研究が必要だと思う。点ではなく、面としての発展に結び付けることが大事だと思う。

#### 3-2. 第2回委員会で委員から出された主な意見

(1) まちづくり構想整備構想案について

<そらら拡張について>

- ・現時点で駐車場が足りていない。特にイベント開催時は広いスペースが必要となる。イベントにも使えるし臨時駐車場にも使える広いスペースを確保してもらえるとありがたい。特に熱気球のイベントには空港近くに広いスペースが必要となる。
- ・YS11の展示は目的ではなく手段で、目的はあくまで「そ・ら・ら」の売上を上げることだと考えるので、Jフロントも含め、費用対効果があるかどうかを検証してもらいたい。

<そらら参道について>

- ・参道の構想はとてもよいが、実際に古民家を設置できるほどの幅員は確保できないと思われる。「そ・ら・ら」との一体化は評価するが、幅員を広げるにはどのように広げるか考えを聞きたい。
- ・自動運転車の導入について、現時点ではまだ厳しいと思われる。たとえばセグウェイを利用してはどうかと思う。
- ・沿道に店舗を並べるよりは、一カ所に集中して設置するほうが集客もよく運営もしやすい。できればその箱のなかに温泉が入っているとよい。
- ・空港アクセス道路からゲートウェイエリアの売上増は雇用対策にもなってよいが、市が行うには限界がある。民間に期待してはどうか。

## &lt;エコトープについて&gt;

- ・安全管理の問題が難しい。ただ小美玉市には公園が少なく、子ども連れで遊びに行く場所が少ないので、子供が普通に遊んで危なくない場所に改良していけばよいと思われる。
- ・コンセプトはすばらしいが、筏は危険を伴う。注意を促したとしても、万が一事故が起きると責任回避は難しい。夏は暑く冬は寒いので、放置するとむしろマイナスイメージになりかねない。

## &lt;Jフロントについて&gt;

- ・場所をどこにするか、どこをターゲットにするかを考えないといけない。空港近くでやると駐車場の問題もある。浜松でも市の負担が大きいと聞いている。「そ・ら・ら」と併設にして、平日のお客さんを「そ・ら・ら」に導けるとありがたい。
- ・ドローンは室内であれば航空法の問題はない。F4の場所と差し替えてもよいのでは。
- ・サバゲーが自衛隊基地に隣接していると変な誤解を招くので、慎重になってもよいと考える。
- ・基地で見学を受け入れている雄飛園について、そのものを基地外に出すことはできないが、航空機の貸与については、F4と同じ手続きで可能となる。ただし懸念事項として、長期間屋外に展示しているものなので移設に耐えられるかどうか疑問。また、費用は自治体側でもってもらわないといけないので、機数が増えるとコストがかさむと思われる。
- ・整備地としては、基地と一体感があるほうが集客が見込めると思うが、空港の西側では見えにくいのではないか。
- ・空港周辺は駐車場の確保もあり候補地の選定は難しい印象を受ける。ターミナルと「そ・ら・ら」間の回遊性の観点からすると「そ・ら・ら」周辺にあったほうがよいが、展望台を兼ねるとなる空港から離れると難しい。

## &lt;構想全体を通して&gt;

- ・空港から小川北中に向かって右側一帯は第一種農地がほとんど。左側も歯抜けになっている。民間は第一種農地だとあきらめざるを得ないので、農地を外して、民間が入り易い状況にしたほうがよい。空港周辺だけでも外せないか検討してもらいたい。
- ・市の促進協議会でもあげているが、つくばエクスプレスを空港まで引っ張ってきたい。現段階では夢物語ではあるが、構想に入れてもらえるとうれしい。



## 4. ワークショップの趣旨

### 4-1. 趣旨・目的

百里飛行場及び茨城空港を核としたまちづくり構想策定にあたり、市民ニーズの把握、市民参画の機会として、市民ワークショップを実施することとしました。

実施にあたっては、小美玉市第2次総合計画の土地利用構想で示している「空の交流エリア」「ゲートウェイエリア」に対象地をしぼり、茨城空港の来訪者は年々増加してはいるものの空港利用のみに留まり地域の活性化に寄与していない状況の打開をテーマに、幅広く具体的なアイデアを求めました。

### 4-2. 開催プログラム

#### (1) 開催場所・対象・定員

開催場所：小美玉市役所 2階 第2・3会議室

対象者：公募（応募資格は小美玉市内外、年齢は問わず）

募集定員：30名

#### (2) 開催日時

日時：令和元年7月11日（木曜日） 午後6時～

補足 男女、居住地、職業（学生含む）などに関わらず、できるだけ多くの市民が参加できる平日の夕刻からとしました。

#### (3) テーマ構成

まず小美玉市の地域資源を再確認するところから始め、来訪者の特徴やニーズを考え、それらを背景として「通過型から滞在型」へのまちづくりを模索していく3段階のテーマ設定としました。

#### 1. いまを考える

小美玉市の「強み」（よいところ）と「弱み」（よくないところ）を考えてみましょう。  
キーワード → ずっと残ってほしい、県外からみて、特産品

#### 2. まちを考える

小美玉市にどのような人が、どのような目的で訪れているでしょうか？  
キーワード → 訪日外客、マニア、観光、イベント、ビジネス

#### 3. まちを育てる

茨城空港を利用した人に、小美玉市が特別な場所になるには、何をすれば（つくれば）よいでしょうか。  
キーワード → そ・ら・ら、滞在時間、自衛隊との共存・共生



## 5. ワークショップの開催状況

### 5-1. 開催概況

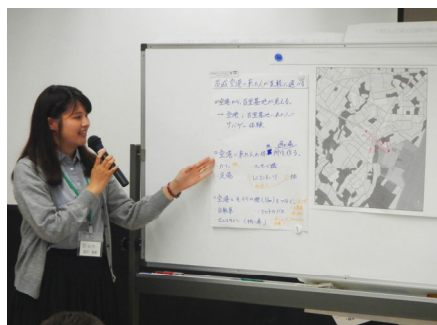
- ① 開催：7月11日（木）18：00～20：15
- ② 参加者数：15名
- ③ 概況

参加者15名が1グループ5名ずつの3グループに分かれ、ファシリテーターから開催趣旨、現況の概要、進行方法の説明の後、アイスブレイキングとして自己紹介、役割分担（リーダー、発表者、書記、タイムキーパー、備品係）が行われ、各テーブルごとのディスカッションが始まりました。

事前に決められた3テーマともに活発な意見交換がなされ、各参加者は自分の意見や考えをポストイットに記入しテーブルに置かれた模造紙に貼り付けていきました。これらの模造紙は休憩時間に閲覧できるように、スタッフによって周囲に展示されました。

休憩後、各模造紙のアイデアはグルーピングと集計がなされ、発表用のタイトル及びコンセプト決めの議論が交わされ、各々発表となりました。

3グループとも発表準備が十分になされたこともあり、独創的で密度の濃い発表が行われ、最後に、ファシリテーターが総括・講評を行い、開催者の挨拶をもって終了となりました。

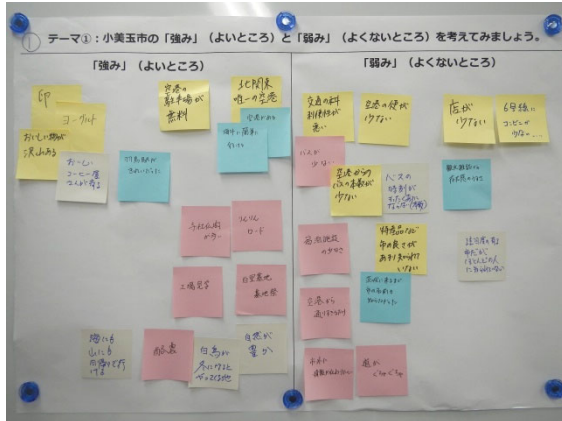


## 5-2. テーマごとの状況

### (1) テーマ① いまを考える

～ 小美玉市の「強み」(よいところ)と「弱み」(よくないところ)～

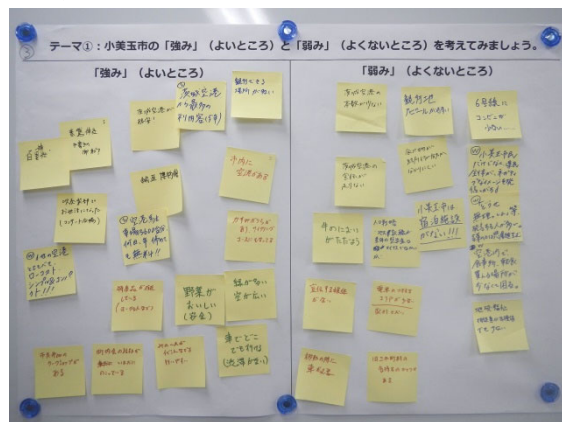
#### >1 班



#### >2 班



#### >3 班



#### 抜粋

##### ○ 強み

##### < 生乳 >

- ・鶏卵生産量日本一
- ・初たまご
- ・ヨーグルトを自己生産

##### < 農産物 >

- ・納豆博物館
- ・おいしく安全な野菜
- ・酪農
- ・メロン、イチゴ、れんこん
- ・ブルーベリー

##### < 空港 >

- ・北関東唯一の空港
- ・海外に簡単に行ける
- ・空港の駐車場が無料

##### ○ 弱み

##### < 知名度 >

- ・観光地アピールが弱い
- ・特産品が知られていない
- ・宣伝する媒体がない

##### < 商業 >

- ・店が少ない
- ・コンビニが少ない
- ・宿泊施設が少ない

##### < 交通 >

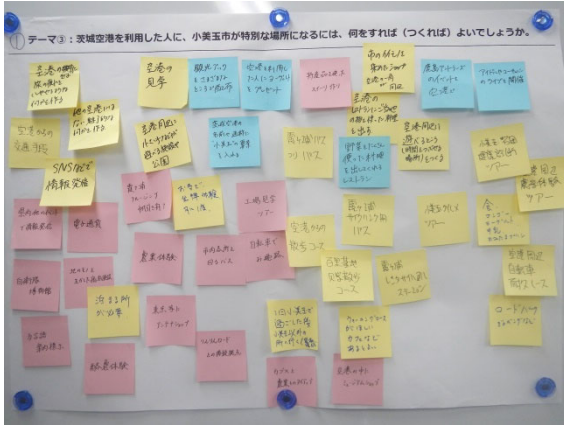
- ・電車が使えない
- ・空港と駅のアクセスが悪い
- ・バスが少ない



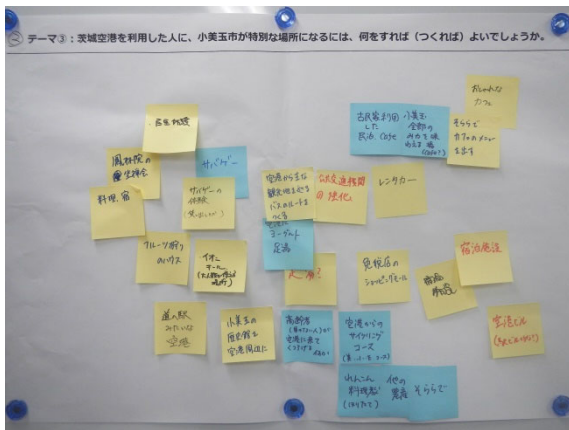
(3) テーマ③ まちを育てる

～ 空港を利用した人に、小美玉市が特別な場所になるには、何をすれば(つくれば)よいでしょうか～

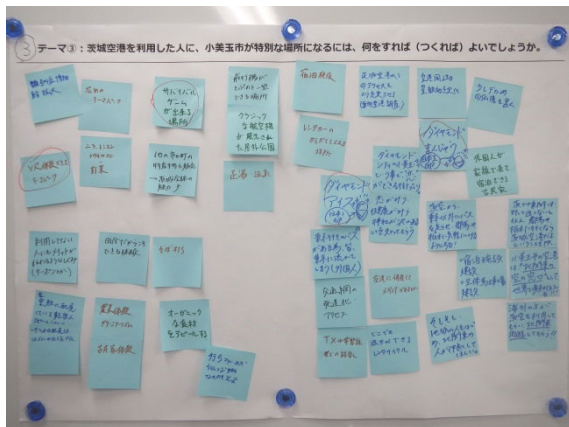
➤1班



➤2班



➤3班



抜粋

< 自衛隊 >

- ・自衛隊博物館
- ・ミュージアムショップ
- ・航空機が展示された公園

< 遊び >

- ・サバゲー
- ・小さな子が遊べる施設
- ・旅の疲れをいやす何か
- ・座禅体験

< グルメ >

- ・小美玉グルメツアー
- ・おしゃれなカフェ
- ・ご当地レストラン
- ・グランピング

< 交通 >

- ・空港から観光地を巡るバス
- ・霞ヶ浦つりバス
- ・公共交通機関の強化
- ・自動運転車

< 農村 >

- ・農業/酪農体験
- ・空港にヨーグルト足湯
- ・田舎ならではの体験
- ・納豆博物館拡大
- ・そば打ち、れんこん料理教室
- ・オーガニック食材をアピール

< 宿泊・他 >

- ・古民家活用
- ・地のものを活かした宿泊
- ・恋ができる街づくり
- ・百里基地見学コース
- ・空港からの散歩コース
- ・自転車でお遍路
- ・ダイヤモンド〇〇
- ・カートコース



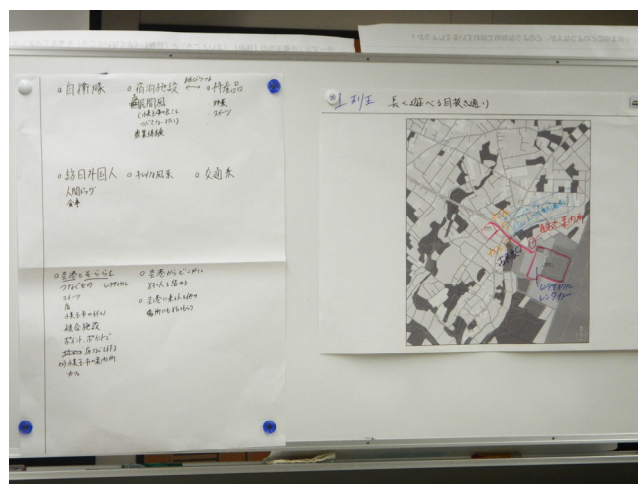
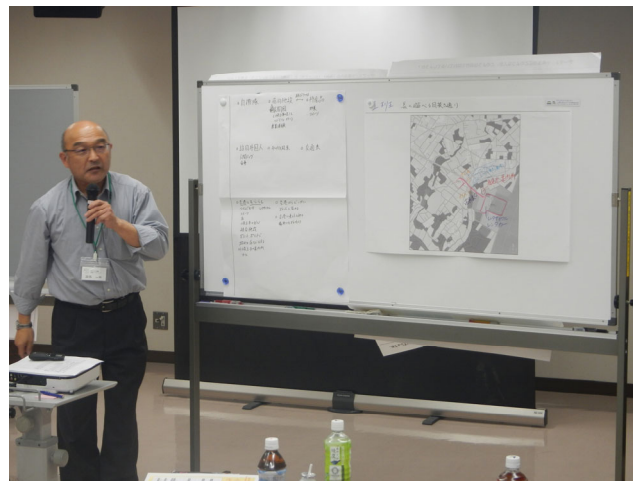
### 5-3. グループごとの発表と総評

#### (1) 第一班発表

##### 発表内容

～ 長く遊べる目抜き通り ～

1. 小美玉の特産品と宿泊施設を結び付け、「古民家カフェ」を空港と「そ・ら・ら」の間につくり、おいしいスイーツや安全な野菜と、農業体験を提供する。
2. 空港からバスに乗ってどこかへ行ってしまおう人に少しでも留まってもらうため、外国のお客様向けの「ショッピングモール」をつくる。  
 その中には、様々な複合施設があり、観光案内所もある。また、店舗のテナントでは空港と共通のポイントカードが利用できる。
3. 茨城空港を拠点として、小美玉市内又は石岡市内で人間ドックの検査ができる「メディカルツーリズム」をつくる。





(2) 第二班発表

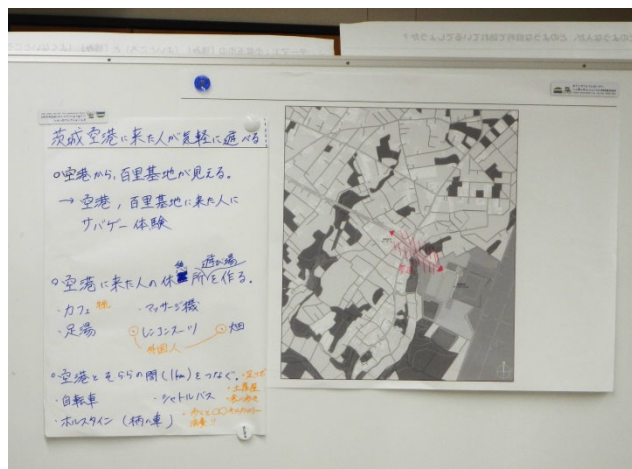
発表内容

～ 茨城空港と百里基地の周辺に遊べる場所をつくる ～

1. 空港周辺は土地に余裕があり、その土地を利用してサバゲー体験ができるスポットをつくれば、自衛隊マニアからも好評が得られる。
2. 空港を訪れた人に「休憩所」と「遊び場」をつくる。そのために、
  - ・話題性のある「おしゃれなカフェ」をつくる。
  - ・近くに沸いている温泉を利用して「足湯」をつくる。
  - ・飛行機に乗ると足がむくむので、マッサージ機を設ける。
  - ・海外のお客様向けに、レンコンスーツを着て畑で記念撮影を撮る。
3. 空港と「そ・ら・ら」間は距離があるため、2つの施設を「レンタサイクルでつなぐ」「ホルスタインに乗って移動する」「牛柄のデザインの車で送迎する」。
4. 女性向けに空港から「そ・ら・ら」まで歩く経路に、カロリー消費が分かるサインを設け、中間にお土産屋さんを作り、楽しみながら歩ける設えをつくる。

(他の班からの意見)

5. 乳製品を食べながら、それらがつくられる過程も学べる場にできるとよい。

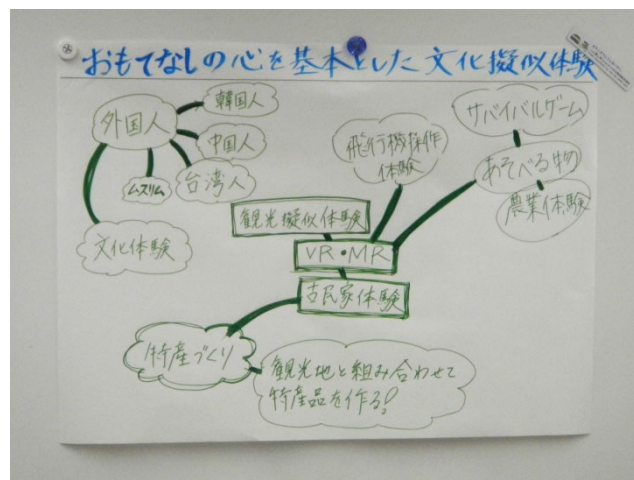


(3) 第三班発表

発表内容

～ おもてなしの心を基本とした文化疑似体験～

1. 外国人向けの対応に力をいれていったほうがよい。
2. 「小美玉」ということばが、台湾の方々に評判が良いため、台湾もしくは外国人にターゲットをしぼるとよい。例：「ムスリムの方々に向け、豚肉不使用のレストランをピックアップしたリストをつくり空港で渡す」など。
3. 新しい技術を取り入れた文化疑似体験として、VR、MRを取り入れていく。例：VRを使って様々な体験（「飛行機の操作体験」「サバゲー体験」「農業体験」「古民家体験」など）ができる施設をつくる。
4. 特産品を活かし、観光地と組み合わせた新しい名物をつくる。例：「ダイヤモンドアイス」「ダイヤモンド饅頭」
5. 外国人のお客さんとコミュニケーションを取るにあたり、「おもてなし」の心をもって対応できるように、語学を学べる場所をつくる。
6. 外国人の方々に喜んでもらえれば日本人もうれしい。結果として、小美玉に人が増えていく。



(4) 総評

➤ 空港とその周辺に対して、参加者が感じている共通の課題が見えてきました。主だったものをあげると以下になります。

- ・ 宿泊施設や滞在型の施設がない。
- ・ 空港と「そ・ら・ら」を結び付ける効果的な交通手段が必要。
- ・ 若い人を惹きつけるおしゃれな空間がない。
- ・ 休憩所や遊び場が足りない。
- ・ 空港を拠点に旅行者を地域に拡散できていない。
- ・ 外国人へのおもてなしの意識が欠けている。

➤ 今後のまちづくり構想(素案)のヒントとなるトピックやコンテンツが数多く提示されました。主だったものをあげると以下になります。

＜空港に設けるもの＞

- ・ 乳製品カフェ、足のむくみをとる癒しの場、航空機の疑似体験（VR・MR）

＜空港と「そ・ら・ら」の間に設けるもの＞

- ・ 田舎をまるごと体験する古民家カフェ、ジャパンテナントのモール

＜空港を拠点とするもの＞

- ・ メディカルツーリズム、りんりんロード、スイーツ・グルメツアー

＜空港周辺＞

- ・ サバゲー体験、普段見られない農業・酪農体験、こどもの遊び場、語学学校

＜交通手段＞

- ・ 牛車、ホルスタイン柄のデザイン車、自動操縦カート、カロリーサイン（徒歩）

＜コンテンツ＞

- ・ レンコンスーツで記念撮影、ダイヤモンド〇〇という商品開発、「小美玉」という縁起のよいネーミングを活用、恋ができる街づくり

## 5-4. まちづくりに向けての考察

### (1) ニーズの抽出

ワークショップの考察からみえてきた対象エリアの「強み」と「弱み」を掘り下げ、まちづくりに向けてのニーズを抽出しました。

#### ➤ 強みを伸ばすニーズ(独創性を追求)

- ・基地をテーマとしたプログラムの充実
- ・「そ・ら・ら」と空港を結ぶ新たな交通手段
- ・特産品をアピールするご当地型店舗
- ・卵や果物の魅力をアピールするスイーツ開発
- ・農村を体験する価値の具現化
- ・古民家プロデュース

#### ➤ 弱みを補うニーズ(弱みを強みに変革)

- ・宿泊施設の誘致
- ・空港をハブとした交通網やツーリズムの整備
- ・小さな子供や大人が遊べる施設
- ・テーマ性のある着地型観光(〇〇ツアー)の充実
- ・個性的なショッピングモールとそのにぎわいづくり
- ・ネーミングとしての「小美玉」の活用

## (2) キーワード／コンセプト選定

対象エリアに求められるニーズの充足を目標に、構想（素案）のテーマとなり得るキーワードと具体的なコンセプトを検討しました。

### 「乳製品」「発酵食品」「新鮮な農産物」

#### ☛ オリジナル商品の開発や企業化の可能性を探る

- ・れんこん堀り等の農業体験（日本初）、乳搾り・チーズ作り等の酪農体験ができる場の提供。
- ・岡山県「蒜山（ひるらく）ヨーグルト」と連携（交換留学制度の導入）等を通じて、ジャージー牛を飼育し、その生乳でヨーグルト、チーズ、スイーツを生産し、「そ・ら・ら」参道の店舗にて販売。
- ・プロのヨーグルト、チーズ職人の呼び込みと、小美玉ならではのスイーツ等新規特産品の創生。
- ・出来立てのチーズを使った薪窯ピザと「そらら地ビール」を販売。

### 小美玉ツーリズム

#### ☛ 観光スポットが比較的散在していることを逆手にとる

- ・レンタカー（あるいは自動運転車両）とレンタサイクルを組み合わせた観光地巡り、そしてその場所を提案するVisitor Centerの充実。
- ・ハブアンドスポーク的発想の導入。つまり離れた観光拠点間はレンタカーで移動し、そこから周辺の散策はレンタサイクルを利用。（なお、レンタサイクル、レンタカーは原則シェアエコにて対応する。）
- ・地元を代表するレンタカー企業である「トヨタレンタリース」と連携し、空港と「そ・ら・ら」間を結ぶ「日本初」のレベル4（\*）自動運転車専用道路の導入（当初はカーブ利用も検討。）

\*レベル4：特定の場所にてシステムがすべての操作を実施する。（原則運転手は何もしないイメージ。）



## そらら参道プロジェクト

- ☛ 「そ・ら・ら」までの参道の活性化
  - ・空港と「そ・ら・ら」間の参道にショップ、カフェ、宿泊施設等を充実させ、空港利用者が散策がてら散歩できるエリアを実現。（片道は日本初の自動運転車両、またはカートにて搬送可能とする仕組みを構築する。）

## 基地フロント構想

- ☛ 工業団地を利用し子供を呼びこむ工夫（大人から子供まで一日遊べる場所の提供）
  - ・ショッピングモールに付随したサバゲー、ドローン体験等ができる場の提供。（自衛隊OBとの連携や、ある程度本格的に体験できる仕組みを模索する。）
- ☛ 自衛隊百里基地との共生
  - ・ミリタリーマニアが集える「日本初」のサポート施設。（例えば、1F：土産物、カフェ、レストラン、足湯等の一般施設、2F：室内から写真撮影もできるカフェ、情報交換エリア、3F：オープンスペースで写真撮影ができるエリア・・・）。
  - また、建物の周囲を囲むように近傍に雄飛園を移設し、見る／体験するコーナーを併設。（自衛官募集、自衛隊広報機関の仕組みの展開にも活用する。運営に当たっては自衛隊OBと連携する。）

## いつでも「ダイヤモンド筑波」

- ☛ 「ダイヤモンド筑波」のマーケティング強化
  - ・「ダイヤモンド筑波」をVR・MR等で疑似体験できる仕組みづくり。（年に2回見ることができる体験は貴重であるが、実体験が困難なため、最新技術を駆使する。）
  - ・「ダイヤモンド筑波」を組み入れた企画の充実。（男体山と女体山の間に夕陽が落ちる特別な日のアニバーサリー化や、日本最大規模の街コンである「そらコン」とのマッチング等。）

### 古民家カフェ

- ☛ 日本の癒しをコンセプトに古民家の魅力を外国人旅行者にアピール
- ・酪農スイーツ、足湯ヨーグルト等、小美玉の癒し商材を複合的に提供。
- ・宿泊体験、サイクルツーリズム等、スローで味わう日本の原風景を演出。

### おみたまゲートウェイ

- ☛ 関東唯一の空へのアプローチであるアクセス道路の視覚的演出
- ・アクセス道路沿道に小美玉特産の果物で並木を構成。
- ・筑波山をモチーフにしたシンボルゲート（ダイヤモンド・アーチ）を設置し空港に向かう非日常感を最大限に演出。

### 蓮池パーク

- ☛ 空港と「そ・ら・ら」間にある低湿地の活用
- ・北山池を中心に、国内の有名な蓮池を再現したいくつかの特徴的な蓮池群と、散策路、東屋による回遊性のある自然公園。（一部に子どもが楽しめる水遊びや遊具を設ける。）
- ・航空機利用者の疲れを癒すためのハンモックや屋外ファニチャがある癒しの空間。